

構造関係共通図(配筋標準図)

総則

- 1. 適用範囲
(1) 本構造関係共通図は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立の一般的な標準図とする。
(2) 本構造関係共通図以外については、設計図及び監督員の指示による。

- 2. 用語の定義
(1) 設計図とは、建築構造のうち特記仕様書(構造関係)、構造関係共通図以外の図面をいう。
(2) 異形鉄筋の径(本文、図、表において「d」で示す。)は、呼び名に用いた数値とする。
(3) 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

- 3. 優先順位
(1) 設計図書の図面のうち配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1. 特記仕様書(構造関係)
2. 図面
3. 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編) (平成31年版)」

- 4. 記号
図面で使用する記号等は、表A~表Dを標準とする。

表A 異形鉄筋の断面表示記号

Table with columns for '区分' (D10, D13, D16, D19, D22, D25, D29, D32) and '建案' (various symbols).

表B 各階伏図における記号

Table mapping symbols to descriptions like 'スラブの配筋種別', 'スラブ厚さ', '階段の配筋種別', etc.

表C 梁貫通孔記号

Table mapping symbols to hole diameters from 50 to 400mm.

表D スリーブ材質の凡例

Table listing sleeve materials like '鋼管', '溶融亜鉛めっき鋼板', etc.

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

Table showing bending angles (180, 135, 90, 135 and above) and internal diameters for different steel grades.

- 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- (1) 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部

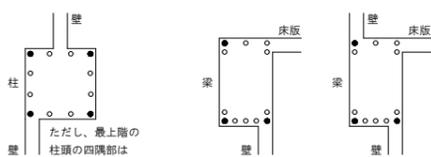


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋(●印)

- (2) 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
(3) 杭基礎のベース筋
(4) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 継手及び定着

- (1) 鉄筋の重ね継手

(ア) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

(イ) 柱及び梁主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

Table for lap length of reinforcement, categorized by steel grade and hook type.

- (注) 1. L1, L1h: フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2. フックありの場合のL1hは、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

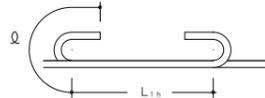


図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

- (ウ) 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上(軽量コンクリートの場合は50d以上)と表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。

- (エ) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置

Table showing lap spacing for different cases: hooks, gas pressure joints, and mechanical joints.

- (2) 鉄筋の定着

(ア) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

Table for development length of reinforcement, categorized by steel grade and hook type.

- (注) 1. L1, L1h: 2. から4. まで以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L2, L2h: 割製破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分Qを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

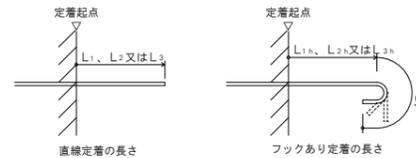


図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- (イ) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の長さは、図3.3により、次の(a)、(b)及び(c)をすべて満足するものとする。

- (a) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
(b) 余長は8d以上
(c) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

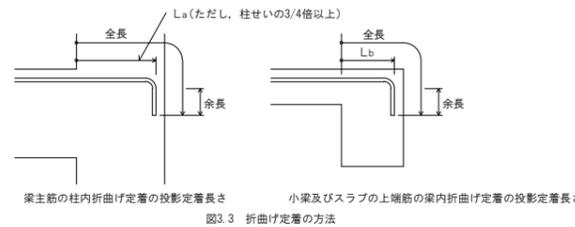
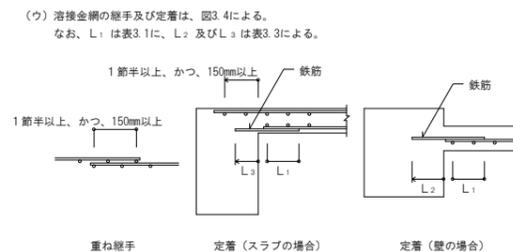


表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

Table for development lengths La and Lb for different steel grades.

- (注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



- (4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

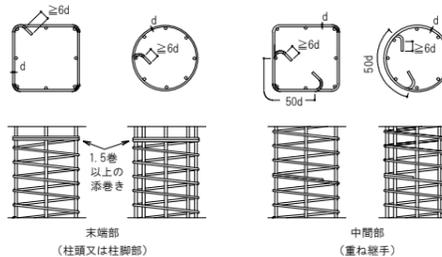


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

- (1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

Table for minimum cover thickness for different construction parts.

- (注) 1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、塗装等)のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

- (2) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
(3) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
(4) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち大きいもの以上とする。

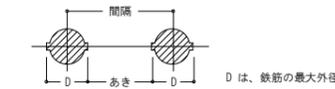


図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

- (ア) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(イ) 25mm
(ウ) 隣り合う鉄筋の径(呼び名の数値)の平均の1.5倍

5.1 基礎梁

- (1) 一般事項
(ア) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。
(イ) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(2)(イ)による。

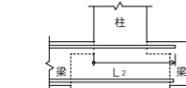
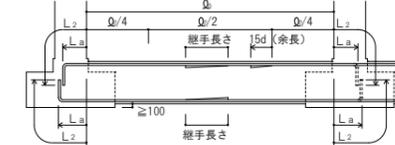


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

- (b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

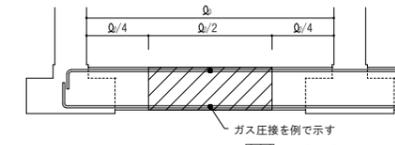
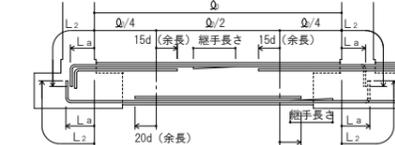


図5.2 主筋の継手、定着及び余長(その1)

- (3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。ただし、耐力スラブが付く場合は、(4)による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

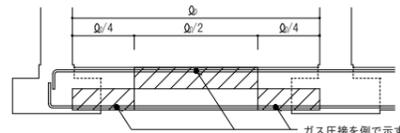
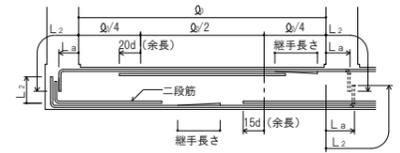


図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その2）

(4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。（耐圧スラブがつく場合を含む）



(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

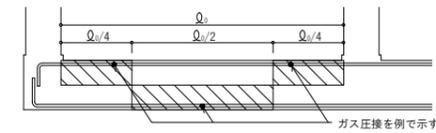


図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）

5.2 基礎梁のあばら筋等

(1) 一般事項

(ア) あばら筋の径および間隔は、設計図による。
(イ) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(2)による。
また、副あばら筋組立の形及びフックの位置は7.2(3)による。
ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

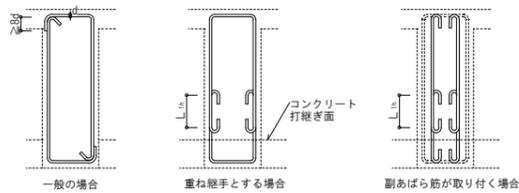


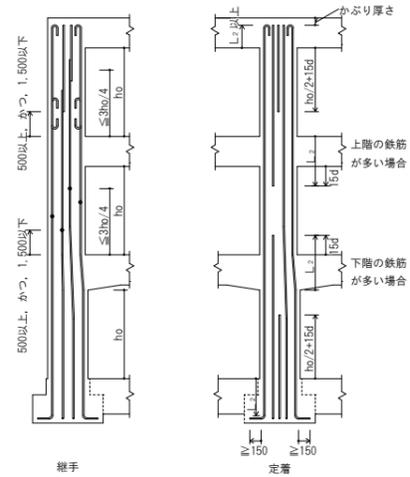
図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

(2) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は設計図による。
(3) あばら筋の割付けは、7.2(3)による。

6.1 柱

(1) 一般事項

(ア) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_o/4$ (h_o は柱の内法高さ) 以下とする。
(イ) 継手、定着及び余長は、図6.1による。
ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、設計図による。



(注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上層の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は、表3.2「隣り合う継手の位置」による。
3. 継手及び定着は、すべての層に適用できる。

図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

(2) 柱打増し部

(ア) 打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がとりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
(イ) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

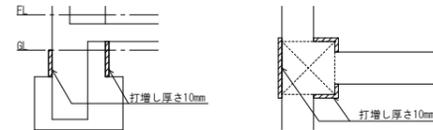


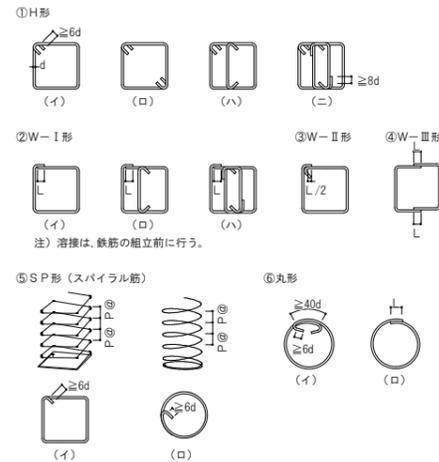
図6.2 柱打増し部

6.2 帯筋

(1) 帯筋の種類及び間隔は、設計図による。

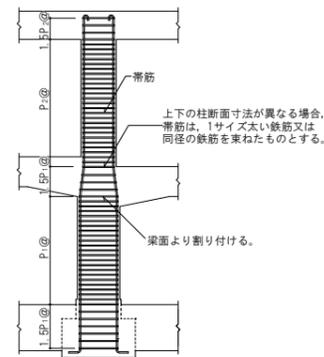
(2) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は設計図による。

(ア) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
(イ) 溶接する場合の溶接長さは、両面重ねアーク溶接の場合は5d以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d以上とする。
(ウ) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。



(注) ③W-II形、④W-III形は耐震改修工事のみ
図6.3 帯筋組立の形

(3) フック及び継手の位置は交互とする。
(4) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は設計図による。



(注) 1. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P@または1.5P@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
2. 図中のP@、P'@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.4 帯筋の割付け

7.1 大梁

(1) 一般事項

(ア) 梁の上り下りりはFLを基準とした寸法値とする。
(イ) 地中梁下の砂利地層厚及び捨てコンクリート地層厚は設計図による。
(ウ) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。

(2) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

(ア) 継手中心位置は、次による。
上端筋：中央 $Q_o/2$ 以内
下端筋：柱より梁せい(D)以上離し、 $Q_o/4$ を加えた範囲以内
(イ) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。
(ウ) 梁筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が、同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

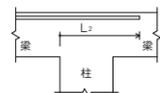


図7.1 大梁主筋の梁内定着

(エ) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

なお、定着の方法は3(2)(イ)による。
上端筋：曲げ降ろす
下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。
下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。
(オ) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は設計図による。
(カ) 段違い梁は、図7.2による。

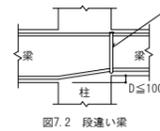
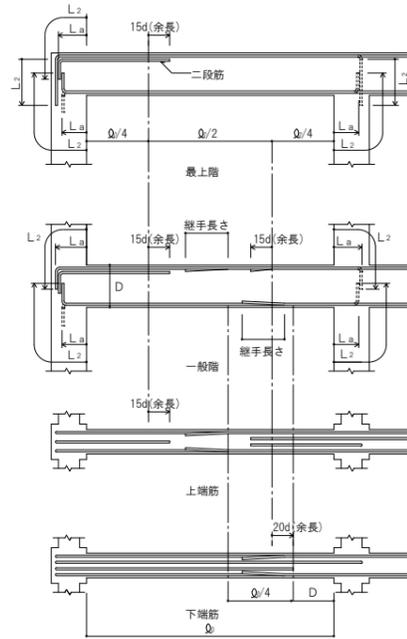


図7.2 段違い梁

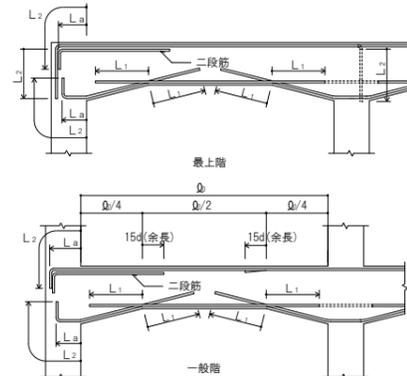
(3) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(4) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。



(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着を示す。
5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋等

(1) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

(ア) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。
(イ) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。
ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さは、定着長さは設計図による。
(ウ) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

(2) あばら筋組立の形及びフックの位置

(ア) 形は、図7.5.1①とする。
ただし、I形梁の場合は、②または③、T形梁の場合は②～④とすることができる。

(イ) フックの位置

(a) ①の場合は交互とする。
(b) ②の場合、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
(c) ③の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

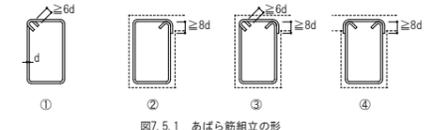


図7.5.1 あばら筋組立の形

(3) 副あばら筋組立の形及びフックの位置

(ア) 形は、図7.5.2⑤または⑥とする。
ただし、L形梁またはT形梁の場合は⑦とすることができる。

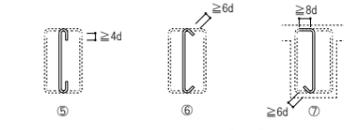
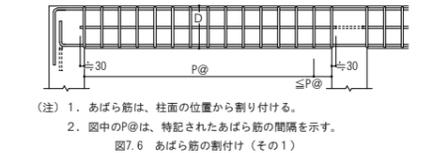


図7.5.2 副あばら筋組立の形

(4) あばら筋の割付け

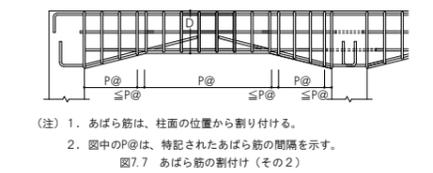
(ア) 間隔が一律でハンチのない場合は、図7.6による。



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の割付け（その1）

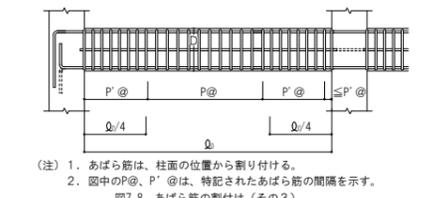
(イ) 間隔が一律でハンチのある場合は、図7.7による。



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け（その2）

(ウ) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。

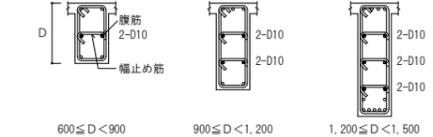


(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け（その3）

(5) 腹筋及び幅止め筋

一般の梁は、図7.9による。



600 ≤ D < 900 900 ≤ D < 1,200 1,200 ≤ D < 1,500

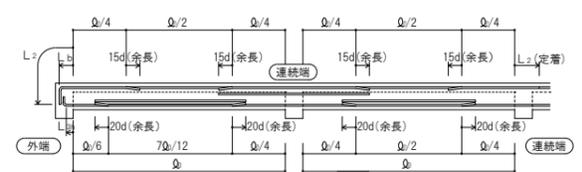
1. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

図7.9 腹筋および幅止め筋

7.3 小梁

(1) 小梁主筋の継手、定着及び余長

連続小梁の場合は、図7.10による。

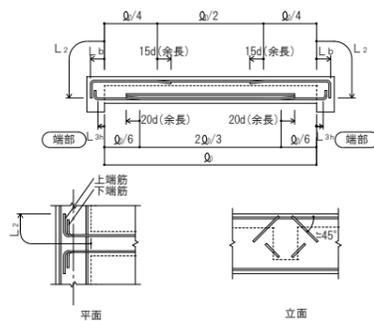


(注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

設計名称	坂戸消防署東分署建設工事		
図面名称	構造関係共通図（配筋標準図・その2）		
縮尺	A1: -	年月	R05.03
A3: -	設計番号	図面番号	S-04
一級建築士事務所	設計者/	一級建築士事務所	設計者/
構造設計一級建築士交付番号第10084号	監理/	一級建築士事務所	監理/
東京都知事登録 第3861号	監理/	一級建築士事務所	監理/

(2) 単独小梁の場合は、図7.11による。



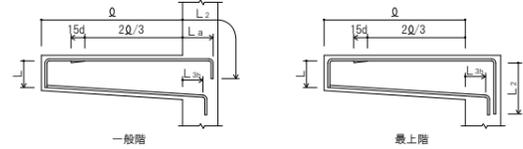
直交する梁へ斜めに定着する場合
 (注) 1. 図示しない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
 2. 印は、余長位置を示す。
 図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

(3) あばら筋は、7.2による。

7.4 片持梁

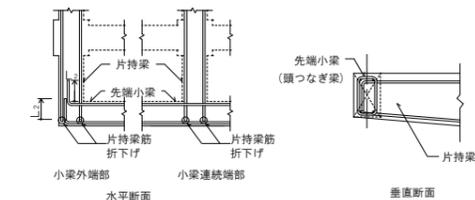
(1) 片持梁主筋の定着及び余長

(ア) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。



(注) 1. 図示しない事項は、7.1による。
 2. 印は、余長位置を示す。
 3. 先端の折曲げの長さL1は、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
 図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(イ) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。



(注) 1. 図示しない場合は、(ア)による。
 2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
 3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。
 図7.13 片持梁主筋の定着

(2) あばら筋は、7.2による。

8.1 壁

(1) 一般事項

(ア) 一般壁筋の重ね継手の長さはL1とし、耐力壁筋の重ね継手長さは特記による。また定着の長さはL2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
 (イ) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000程度とする。
 (ウ) 打増し部分に、壁及びスラブ筋等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。

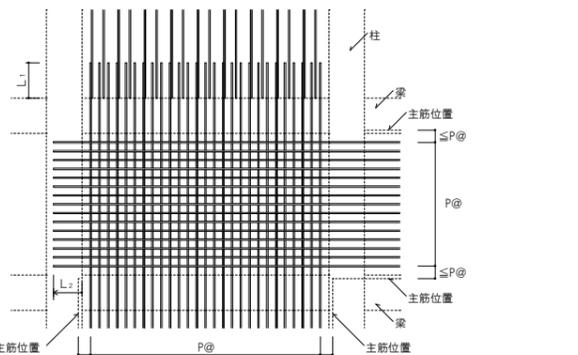


図8.1 壁の配筋 (注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

(2) 壁の配筋は表8.1により、種別は設計図による。

表8.1 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(3) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は設計図による。

表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋 D13-200@ダブル	180	KA1 KA3
	横筋 D10-200@ダブル		
KW2	縦筋 D13-150@ダブル	200	KA2 KA4
	横筋 D10-200@ダブル		

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(4) 土圧を受ける壁の配筋は、設計図による。

(5) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

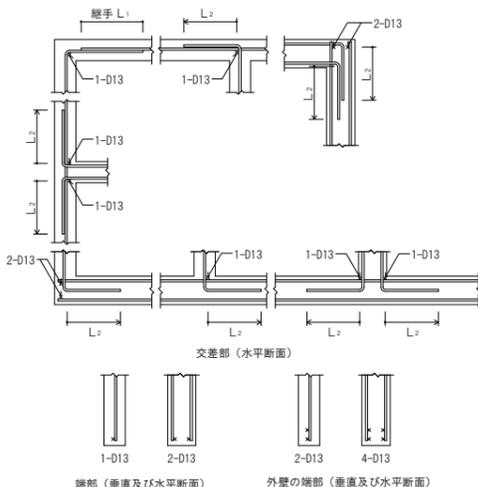


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8.2 一般壁の補強

(1) 壁開口部の補強

(ア) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋(A形)

壁の種類	縦筋	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋(B形)

壁の種類	縦筋	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

(イ) 壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

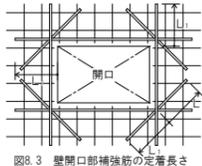


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(2) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、設計図による。

9.1 スラブ

(1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がり、FLを基準とした寸法値とする。
 (2) 土間スラブ下の砂利地層厚及び捨てコンクリート厚は設計図による。
 (3) 土間コンクリート補強筋(D0)の配筋及びコンクリート厚さは設計図による。
 (4) スラブリ筋(S形配筋)は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向(主筋) 全域		長辺方向(配力筋) 全域	
	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域
S1	D13-100#	D13-100#	S8	D10, D13-150#
S2	同上	D13-150#	S9	同上
S3	同上	D10, D13-150#	S10	D10, D13-200#
S4	D13-150#	D13-150#	S11	同上
S5	同上	D10, D13-150#	S12	同上
S6	同上	D10-150#	S13	D10-200#
S7	D10, D13-150#	D10, D13-150#	S14	同上

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

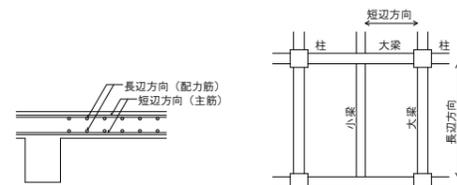


図9.1 スラブリ筋

(5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
 (6) 原則として引き通し、鉄筋の重ね継手長さはL1とする。
 (7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

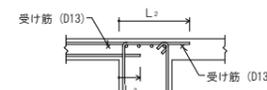


図9.2 スラブリ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

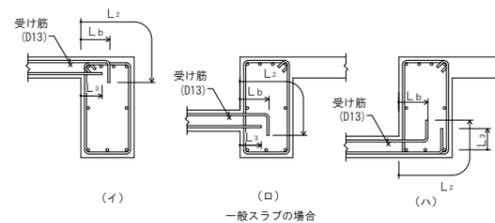


図9.3 スラブリ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

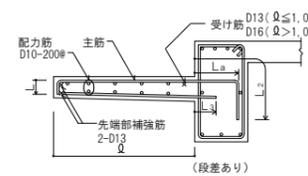
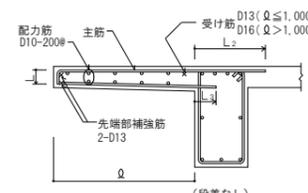
9.2 片持スラブ

片持スラブは、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は、設計図による。片持スラブリ筋は、次による。

(1) 片持スラブリ筋(CS形配筋)は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

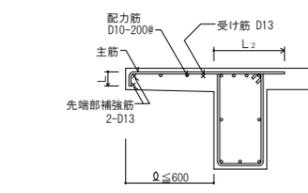
表9.2 CS形配筋

配筋種別	主筋		配筋種別	主筋	
	上	下		上	下
CS1	上	D13-100#	CS5	上	D10-200#
	下	D13-200#		下	D10-400#
CS2	上	D13-150#	CS6	上	D10, D13-200#
	下	D13-300#		下	—
CS3	上	D10, D13-150#	CS7	上	D10-200#
	下	D10, D13-300#		下	—
CS4	上	D10, D13-200#			
	下	D10-200#			



(注) 1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4 片持スラブリ筋(CS11からCS15)



(注) 1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5 片持スラブリ筋(CS16及びCS17)

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図9.6による。

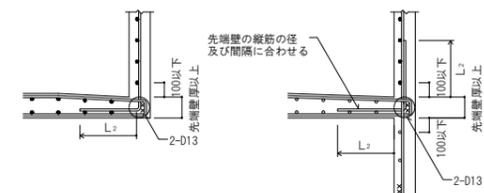
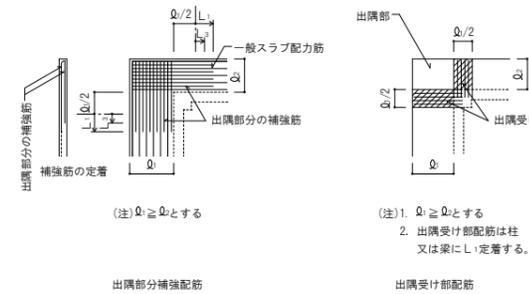


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

(3) 出隅部

(ア) 出隅部の補強筋は設計図により、配筋方法は、図9.7による。
 (イ) 出隅受け部分(図9.7の斜線部分)の補強筋は設計図による。



(注) 1. Q1 ≧ Q2とする
 2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にL1定着する。

図9.7 片持スラブリ筋出隅部の補強配筋

9.3 スラブ等の補強

(1) スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強方法は、設計図による。設計図になければ、(ア)による。
 (ア) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (Q=2L₁) シングルを上下筋の内側に配筋する。

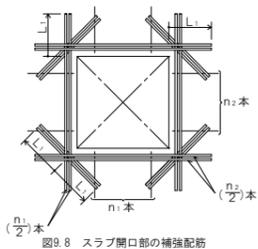


図9.8 スラブ開口部の補強配筋

(イ) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(2) 屋根スラブの補強

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

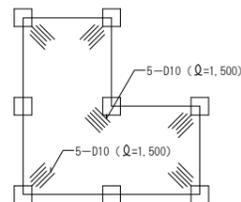


図9.9 出隅及び入隅部の補強配筋

(3) 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

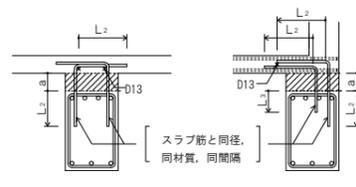


図9.10 打継ぎ補強配筋

(4) 土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、設計図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。

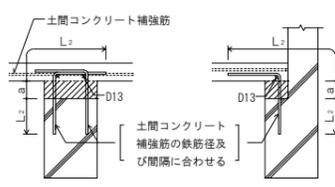


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.1 片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

t: スラブ厚さ

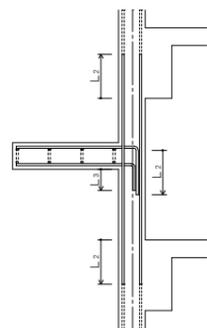


図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

(注) 1. 壁筋は、8.1(3)による。
 2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから嵌り下ろす。
 3. スラブ配筋の継手及び定着の長さ、表3.3【鉄筋の定着の長さ】のL₃とする。

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は設計図による。

二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.2 二辺固定スラブ形階段

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

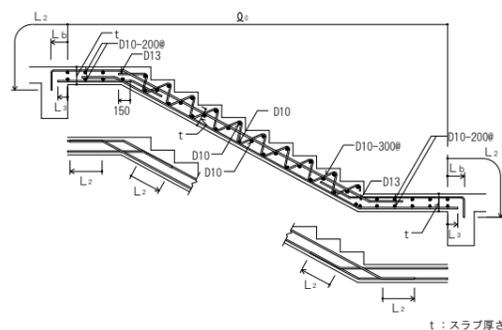


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)

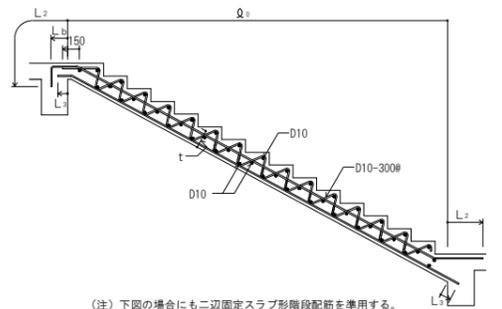


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

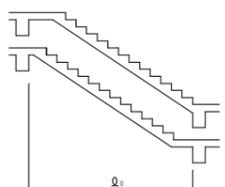


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

11.1 梁貫通孔

(1) 梁貫通孔は、次による。

- (ア) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
- (イ) 孔の径は、梁せい1/3以下とする。
- (ウ) 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。
- (エ) 孔は、柱面から原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (オ) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (カ) 縦筋及び上下横筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (キ) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
- (ク) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋でき、かつ、設計図に特記された場合において、補強を省略することができる。
- (ケ) 溶接金網の余長は、1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (コ) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
- なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (サ) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
- (シ) 他の開口を設けない範囲は、図11.3による。

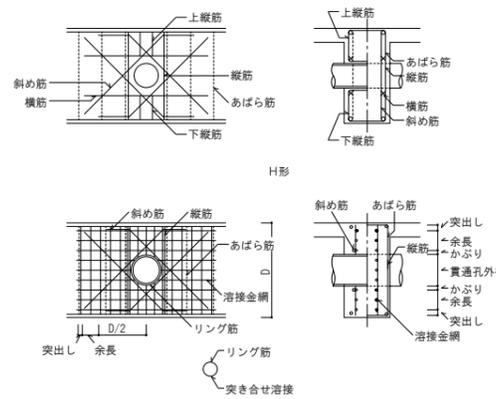


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

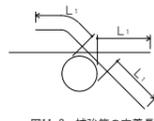


図11.2 補強筋の定着長さ

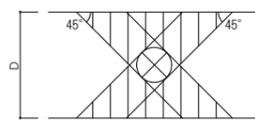


図11.3 他の開口を設けない範囲

(2) 梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、配筋種別は設計図による。

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

(注) は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13	なし	
M3	4-2-D13	2-6φ-100#	
M4	6-2-D13	2-6φ-100#	

(注) は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.3 M形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2	2-2-D13	なし	なし	
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH5	4-2-D16	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100#	

(注) は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック横壁との取合い

- (1) 控壁は、次による。
- (ア) 控壁の配置は、設計図による。
- (イ) 配筋は、図11.4による。

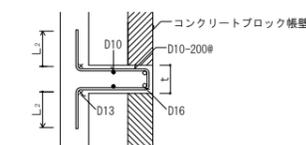


図11.4 控壁の配筋(水平、垂直とも)

- (2) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

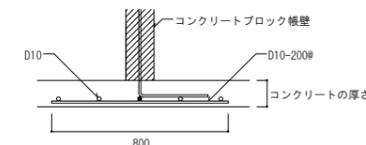


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 バラベット

バラベットの先端補強筋は図11.6により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。

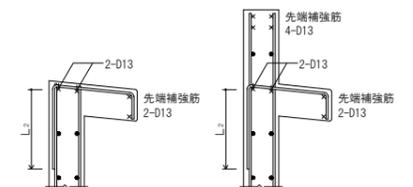


図11.6 バラベットの先端補強筋

12 擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。

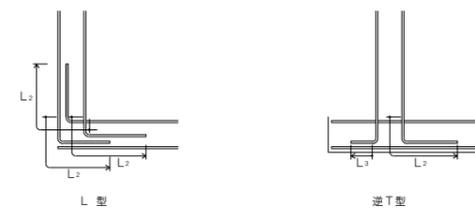
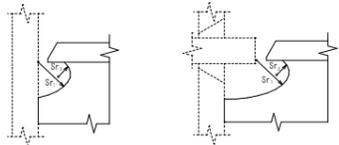


図12 擁壁の鉄筋の定着長さ

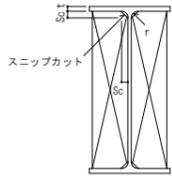
- (4) スクラップ
改良型スクラップ
(ア) スクラップ半径 Sr は35mmとする。 Sr は10mmとする。
(イ) スクラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



従来型スクラップ
スクラップ半径 Sr は35mmとする。



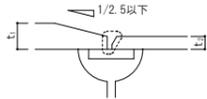
- (5) スニップカット
(ア) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



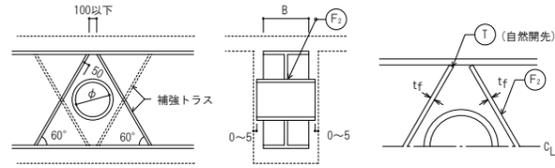
(イ) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、 $Sc=r+2$ により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

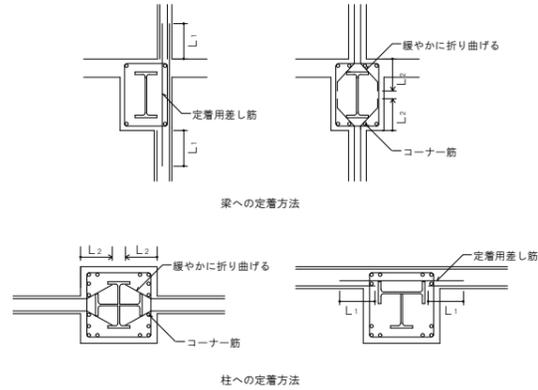
- (6) 溶接部分の段差
完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合、又は低応力高サイクル疲労を受ける場合



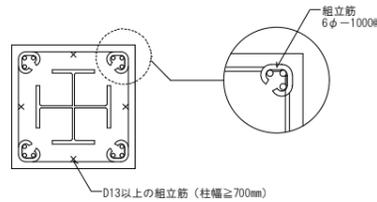
補強トラス法
スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



1-7 壁筋の周辺部材への定着

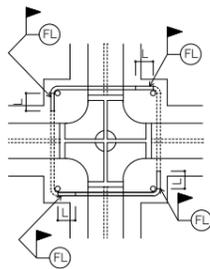


1-8 柱組立筋



1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

片面溶接の溶接長さ(L)は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135°曲げフックとする。

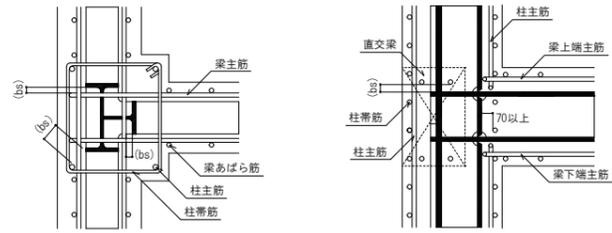


1-10 鉄筋貫通孔の径及び位置

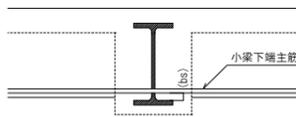
- (a) 鉄筋貫通孔の径
鉄筋の貫通孔径の最大値は、下表による。

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

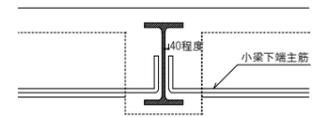
- (b) 鉄筋貫通孔の位置
鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合(単位:mm)



(bs) : 主筋と平行する鉄骨とのあき

1-11 広幅平鋼の取り扱いについて

- (a) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。
(b) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ										
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450					○	○	○	○	○	○	○
500						○	○	○	○	○	○	

1-12 普通ボルト接合

もや、鋼線類の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。

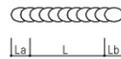
1-13 その他

- (a) フィラープレートの材質
フィラープレートを使用する場合、材質はSS400とする。

1-5 重ねアーク溶接(フレア溶接)を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接(フレア溶接)を行う場合の溶接長さ(L)は、ビードの始点(La)及びクレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。

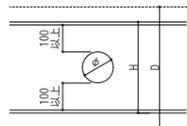
- L: 片面フレア溶接の場合 10d
両面フレア溶接の場合 5d
La及びLbは1d(軽量形鋼については1S)以上
d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値
S: 溶接のサイズ



1-6 梁貫通孔補強

- (1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合は、次による。
(ア) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいりの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
(イ) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

梁貫通孔の位置の限度(単位:mm)

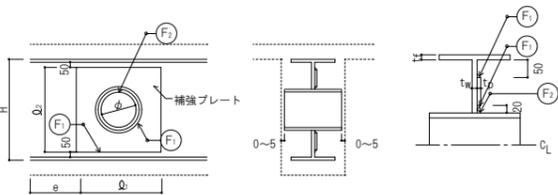


H: 鉄骨せい
D: はりせい
 ϕ : 貫通孔内径寸法
($\phi \leq H/2$ かつ $\phi \leq D/3$)

- (2) 貫通孔の補強方法は、構造図による。
補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

補強プレート法

- (ア) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
(イ) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。



ϕ_2 は3 ϕ または ϕ_2 のうち小さい方とする。(e \geq Hとする)
e: 材端と補強プレートの間隔

設計名称	坂戸消防署東分署建設工事		
図面名称	構造関係共通図(鉄骨標準図・その2)		
縮尺	A1: -	年月	R05.03
A3: -	設計番号	図面番号	S-08
一級建築士事務所	承認/図本 読司	設計者/	製図/
SOWA 相和技術研究所	一級建築士 第346290号 坂口 有	一級建築士 第346290号 坂口 有	坂口 有
東京都知事登録 第3361号	監製/工藤 規也		

ボーリング柱状図

ボーリング柱状図

ボーリング柱状図

調査名 坂戸消防署東分署建設工事基本設計及び実施設計に伴う地質調査

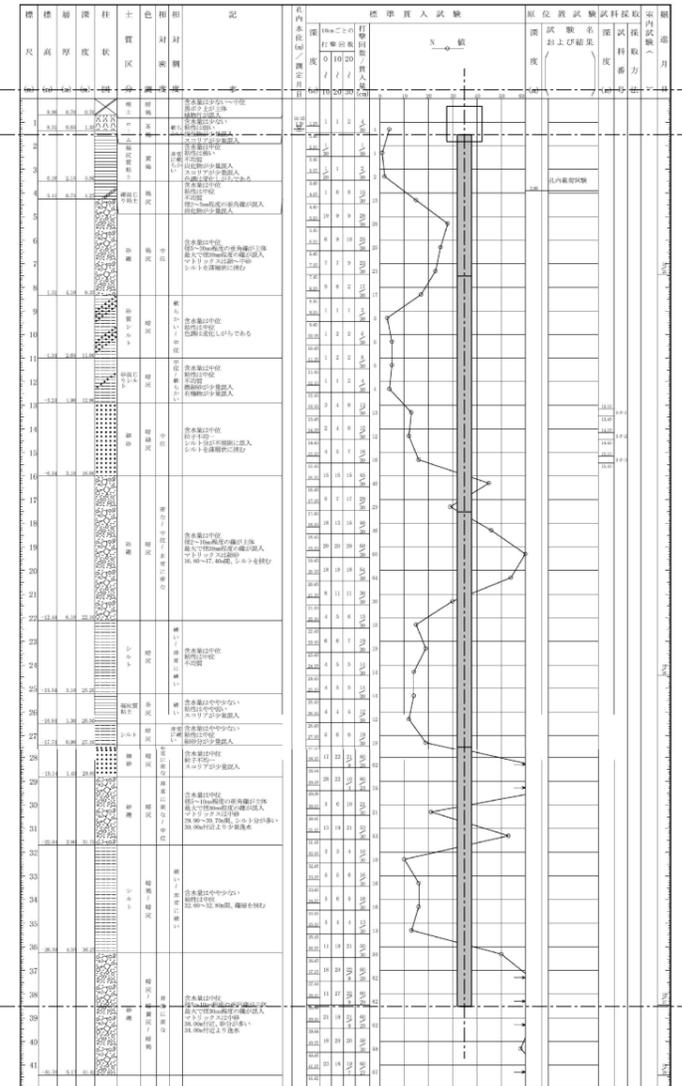
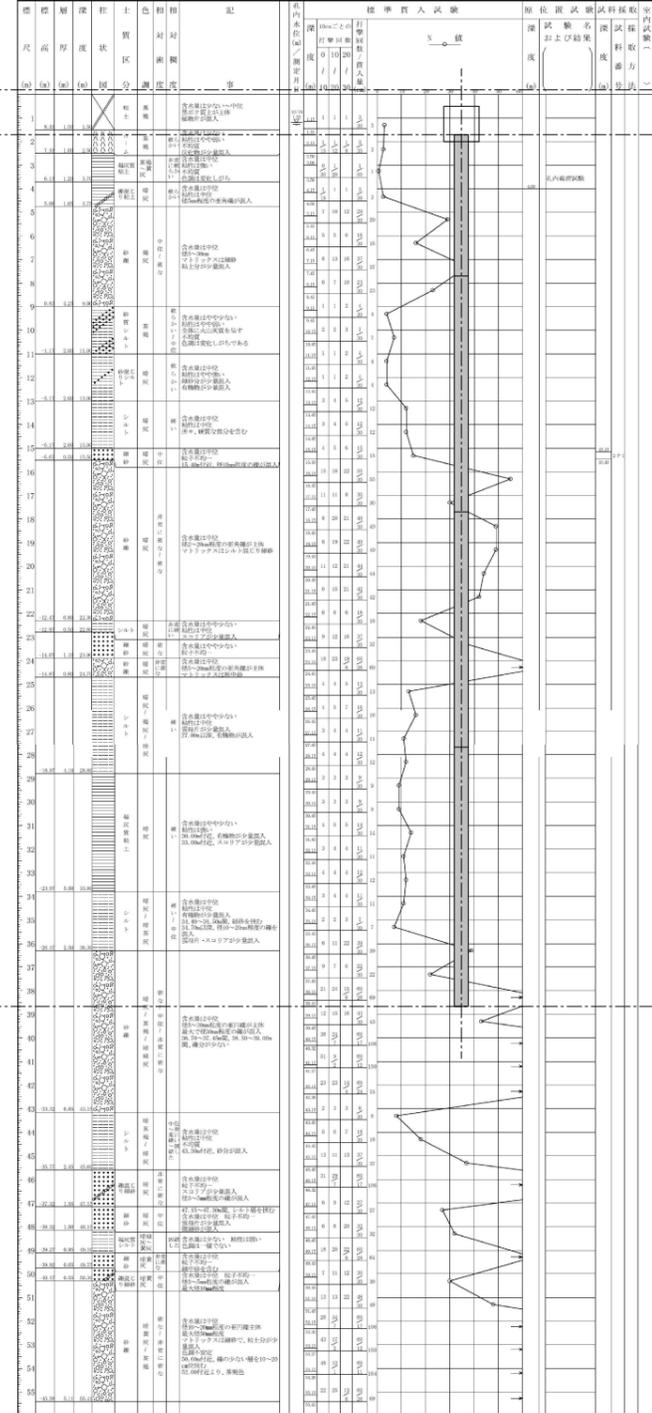
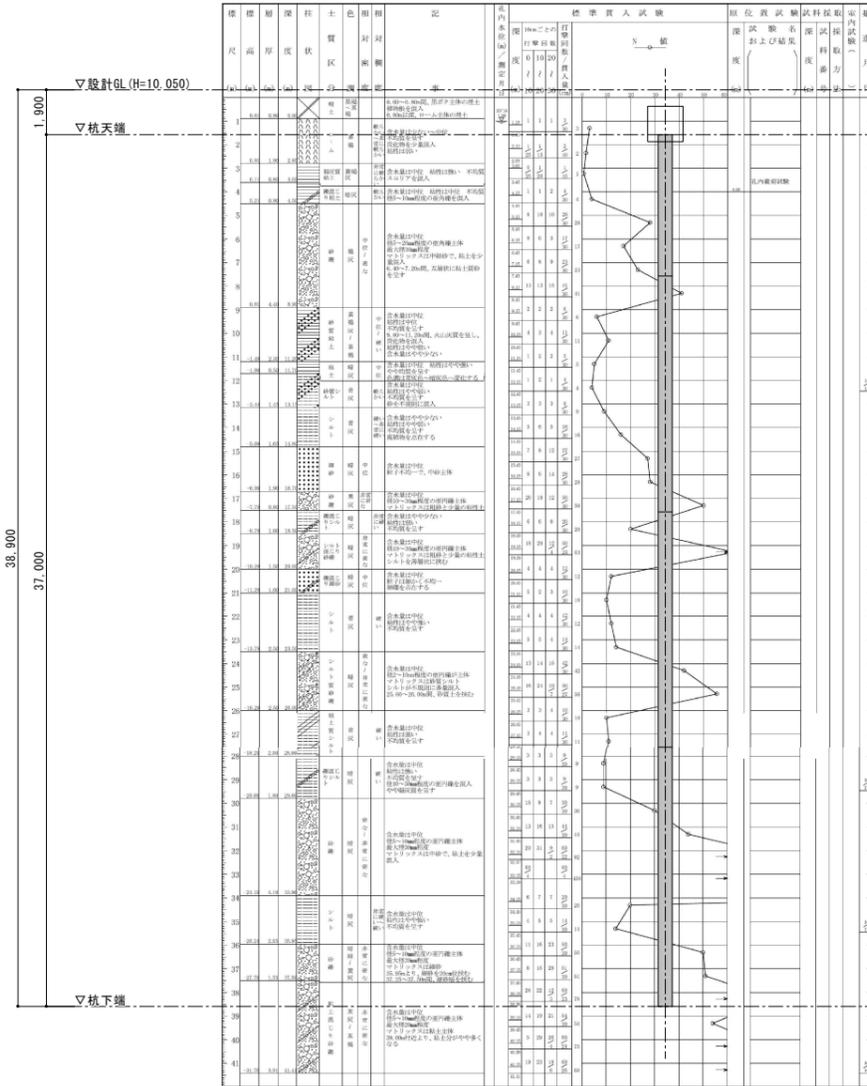
調査名 坂戸消防署東分署建設工事基本設計及び実施設計に伴う地質調査

調査名 坂戸消防署東分署建設工事基本設計及び実施設計に伴う地質調査

Table with project details for No. 1: 調査位置 (No. 1), 調査依頼 (坂戸市), 調査期間 (2022年10月14日～2022年10月18日), 調査者 (株式会社 相和技術研究所), etc.

Table with project details for No. 2: 調査位置 (No. 2), 調査依頼 (坂戸市), 調査期間 (2022年10月19日～2022年10月24日), 調査者 (株式会社 相和技術研究所), etc.

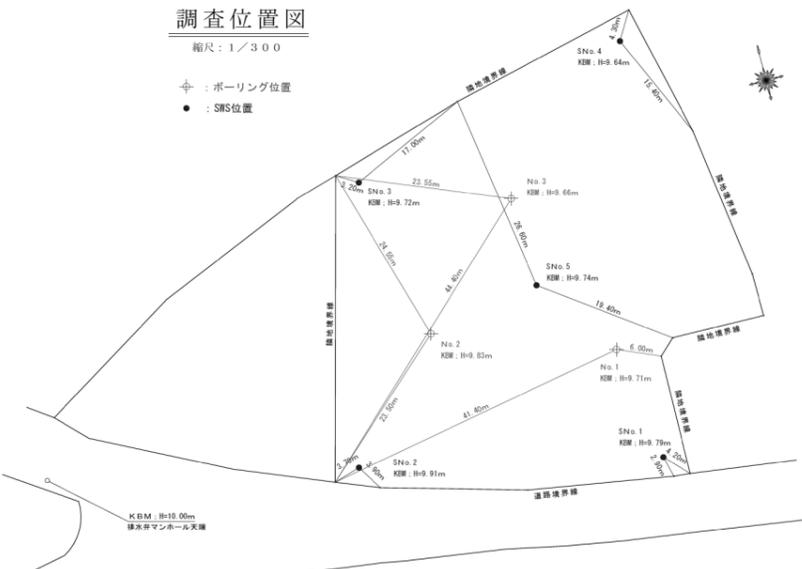
Table with project details for No. 3: 調査位置 (No. 3), 調査依頼 (坂戸市), 調査期間 (2022年10月25日～2022年10月29日), 調査者 (株式会社 相和技術研究所), etc.

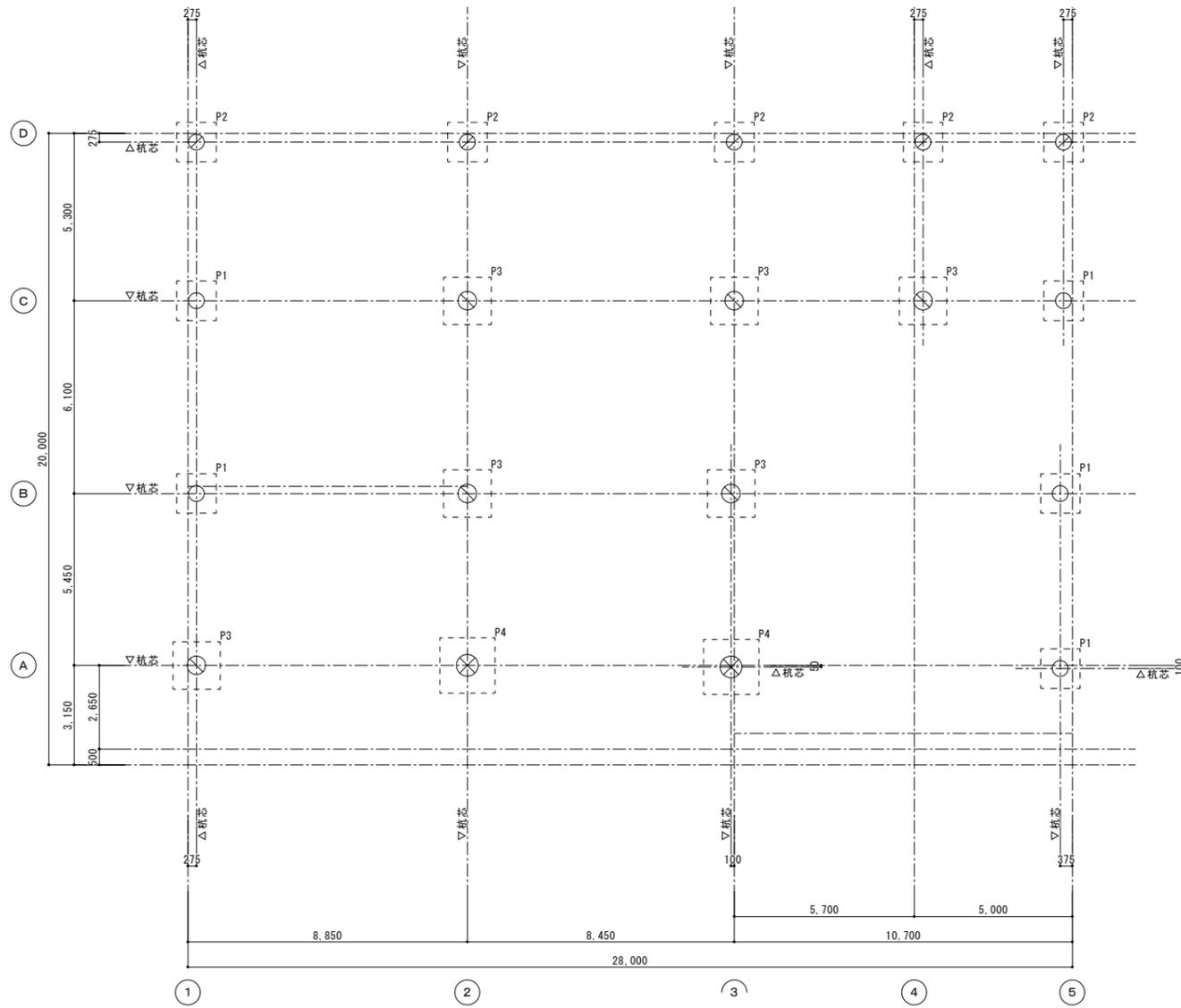


調査位置図

縮尺: 1/300

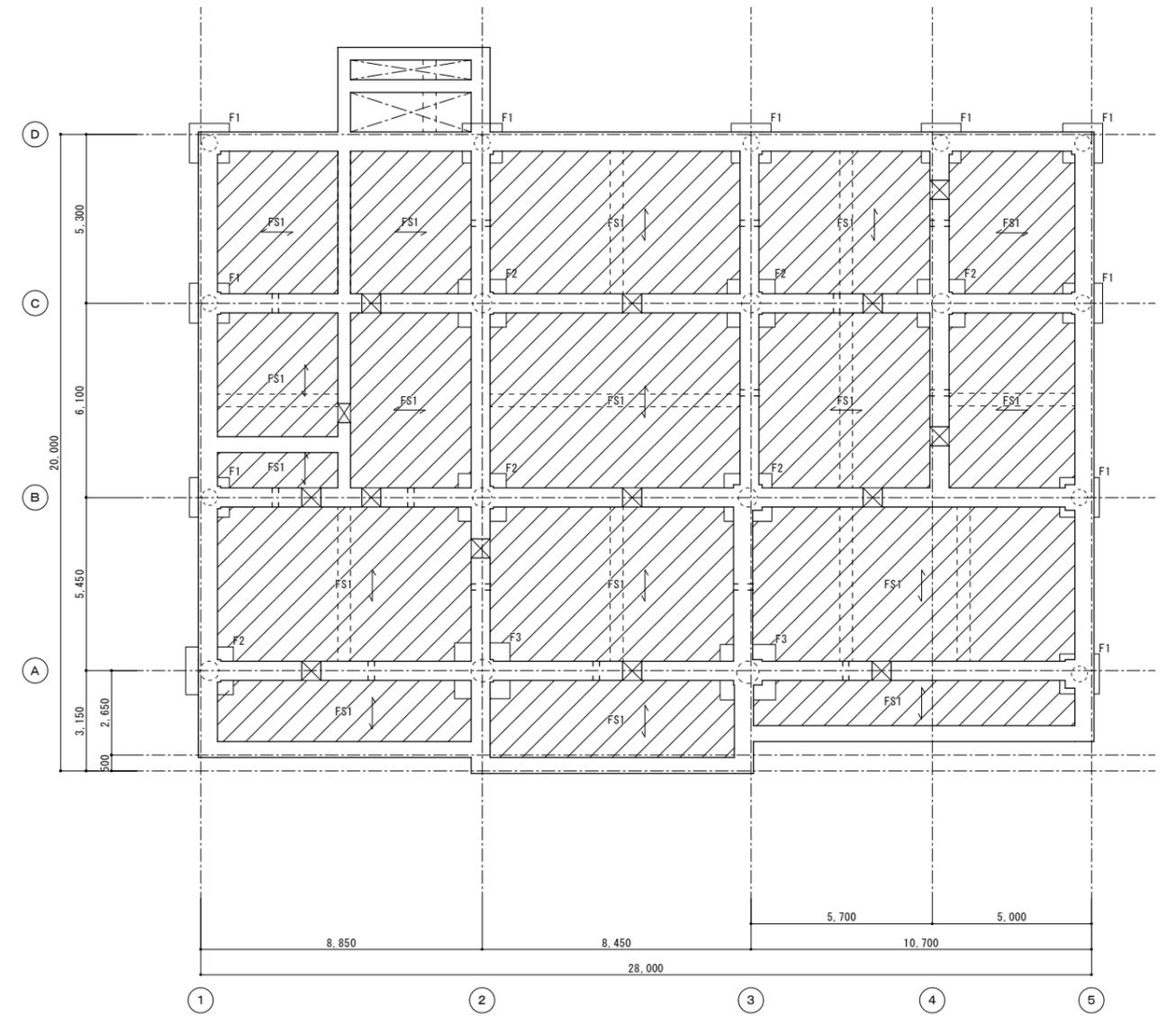
- : ボーリング位置
- : SWS位置





工法 プレポーリング拡大根固め工法
 杭先端 GL- 1.90m
 杭先端 GL- 37.90m
 杭全長 37.0m
 杭径比 1.2
 杭頭補強筋は開先付き異形棒鋼とし、鉄筋径・本数は下表を参照のこと。定着長さはL=1,440以上、溶接長は190mm以上とする。

記号	符号	杭仕様				杭本数 [本]	Ra [kN/本]	杭頭補強筋
		上杭	中杭	下杭				
○	P1	φ500 10SSC (SKK490) t12 (L=6m)	φ500 10SPHC B (L=9m)、10SPHC A (L=11m)	φ500 10SPHC A (L=11m)		5	2413	7-WD41 (WSD490)
○	P2	φ500 10SSC (SKK490) t14 (L=7m)	φ500 10SPHC C (L=10m)、10SPHC B (L=10m)	φ500 10SPHC B (L=10m)		5	2226	8-WD41 (WSD490)
○	P3	φ600 10SSC (SKK490) t12 (L=6m)	φ600 10SPHC B (L=9m)、10SPHC A (L=11m)	φ600 10SPHC A (L=11m)		6	3295	10-WD41 (WSD490)
○	P4	φ700 10SSC (SKK490) t12 (L=6m)	φ700 10SPHC A (L=9m)、10SPHC A (L=11m)	φ700 10SPHC A (L=11m)		2	4205	13-WD41 (WSD490)



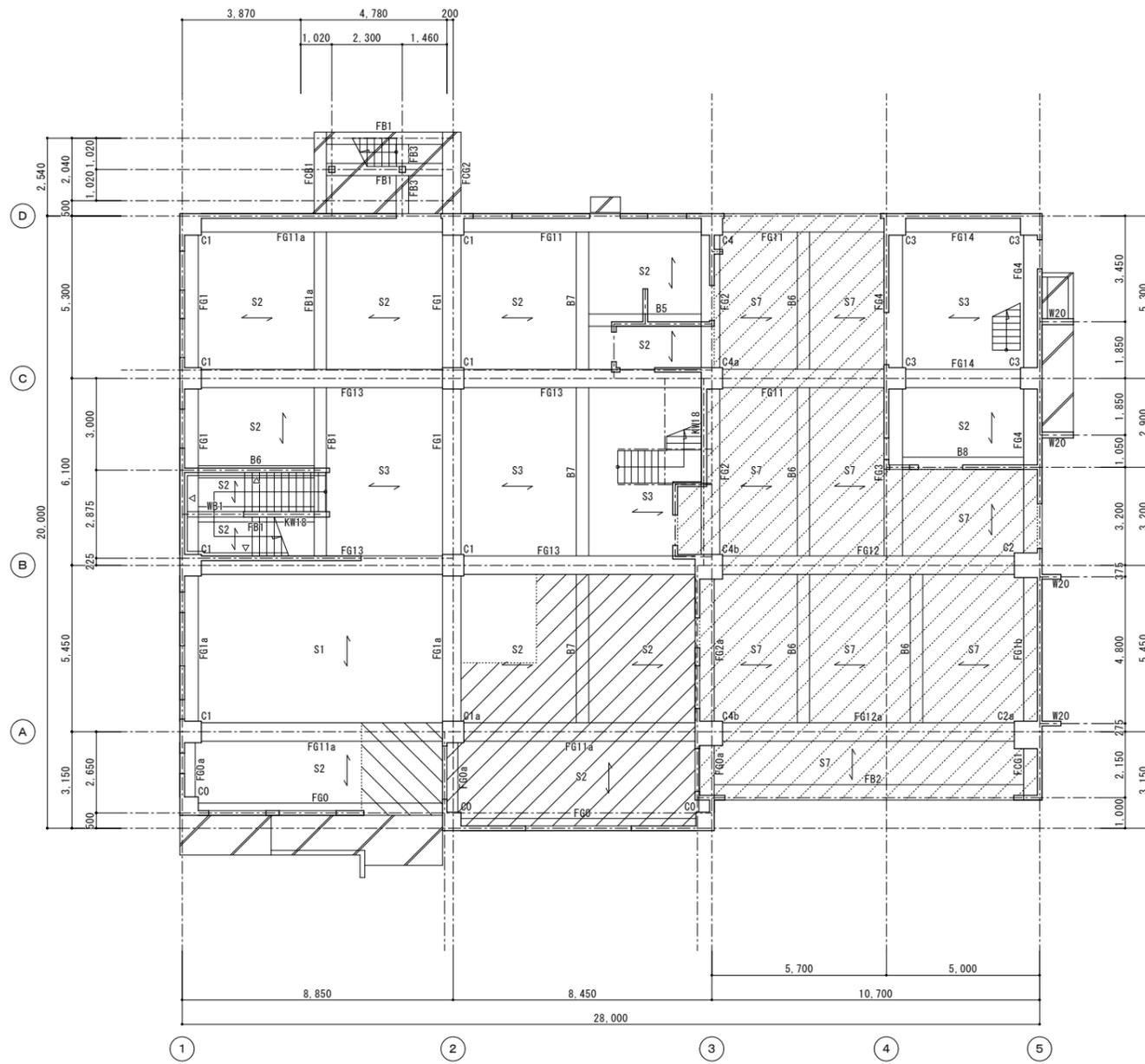
特記事項

- 床スラブ天端レベルは下記による。
 [Hatched] : FL-1.750
- [Arrow] 印はスラブ主筋方向を示す。
- [Hatched] は土間コンクリートを示す。
- 特記なき基礎下端はGL-2.200とする。
- [Symbol] は人通孔を示す。
- [Symbol] は連通管、通気管を示す。

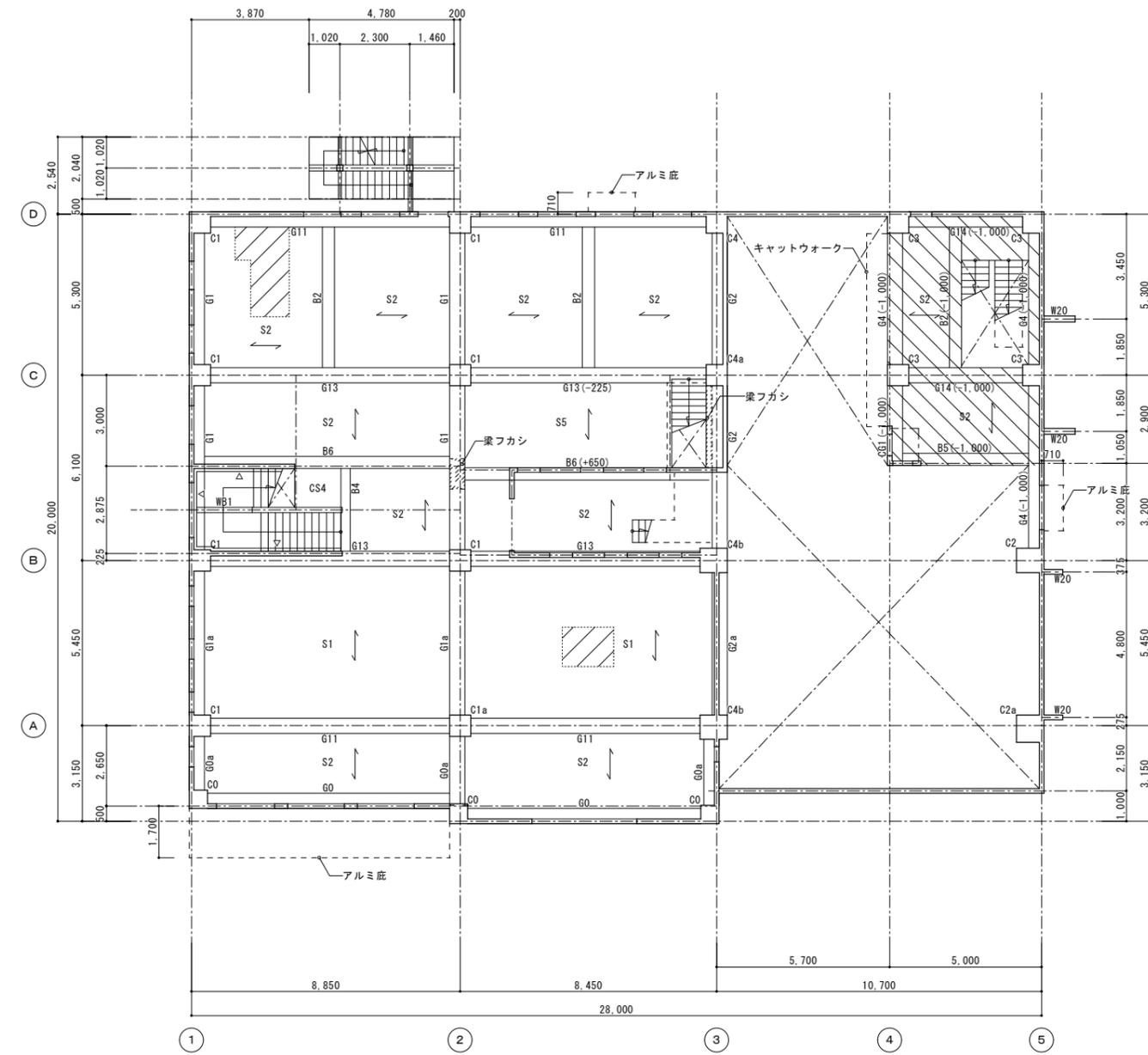
一級建築士大臣登録番号 第346290号 坂口有一
 構造設計一級建築士交付番号第 10084号

設計名称	坂戸消防署東分署建設工事		
図面名称	杭伏図、基礎・ピット伏図		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	年月	R05.03
設計番号		図面番号	S-10
承認/図本 課長	設計者/	製図/	製図/
承認/工務 現役	一級建築士 坂口有一	製図/	坂口有一

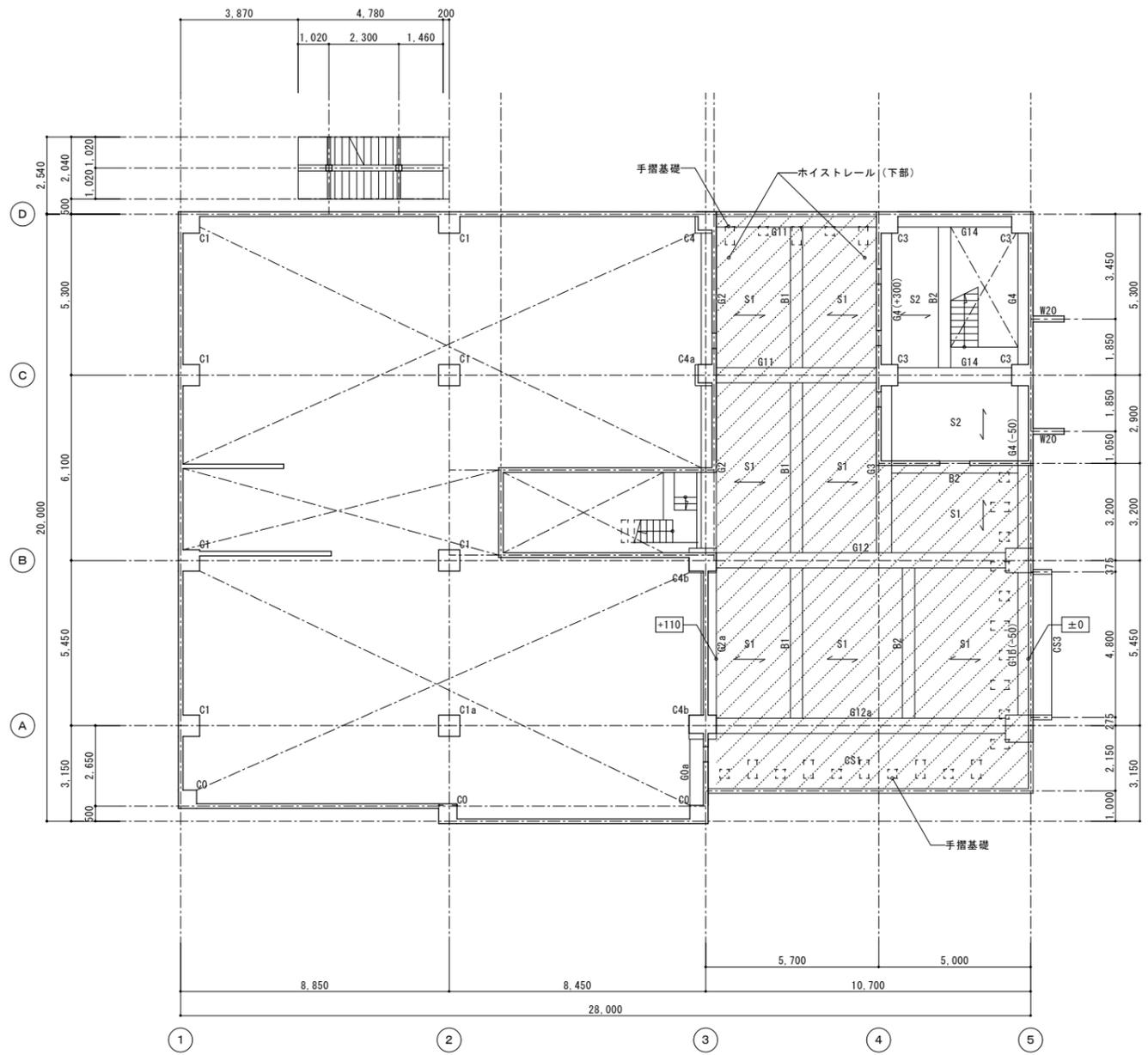
SOWA 相和技術研究所
 東京都知事登録 第3361号



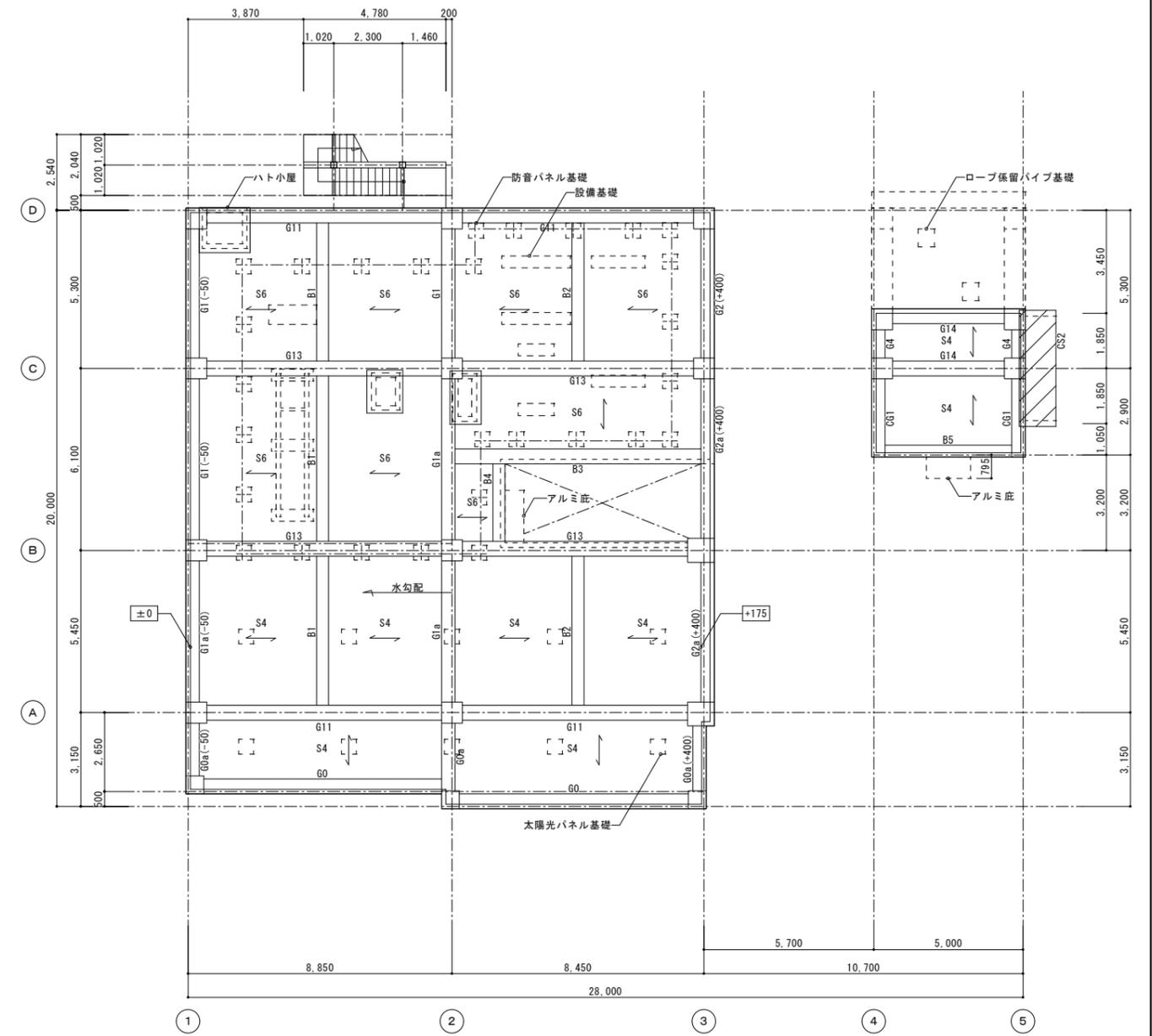
- 特記事項**
- 特記無き限り下記による。
 - 床スラブはS1とする。
 - 立上り壁はW15とする。
 - 床スラブ、小梁天端レベルは下記による。
 - : FL- 10
 - ▨ : FL- 100
 - ▩ : FL- 50
 - ▧ : FL- 100 ~ -200
 - ▦ : FL-
 - ← 印はスラブ主筋方向を示す。
 - 特記無き梁天端レベルはFL-200とする。
 - () 内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - ▨ は土間コンクリートを示す。
 - 梁天端は床スラブ天端までフカシとする。
 - 地中梁主筋はY方向先行落し込みとする。
 - ▽は床スラブ(階段スラブ)の水平スリットを示す。



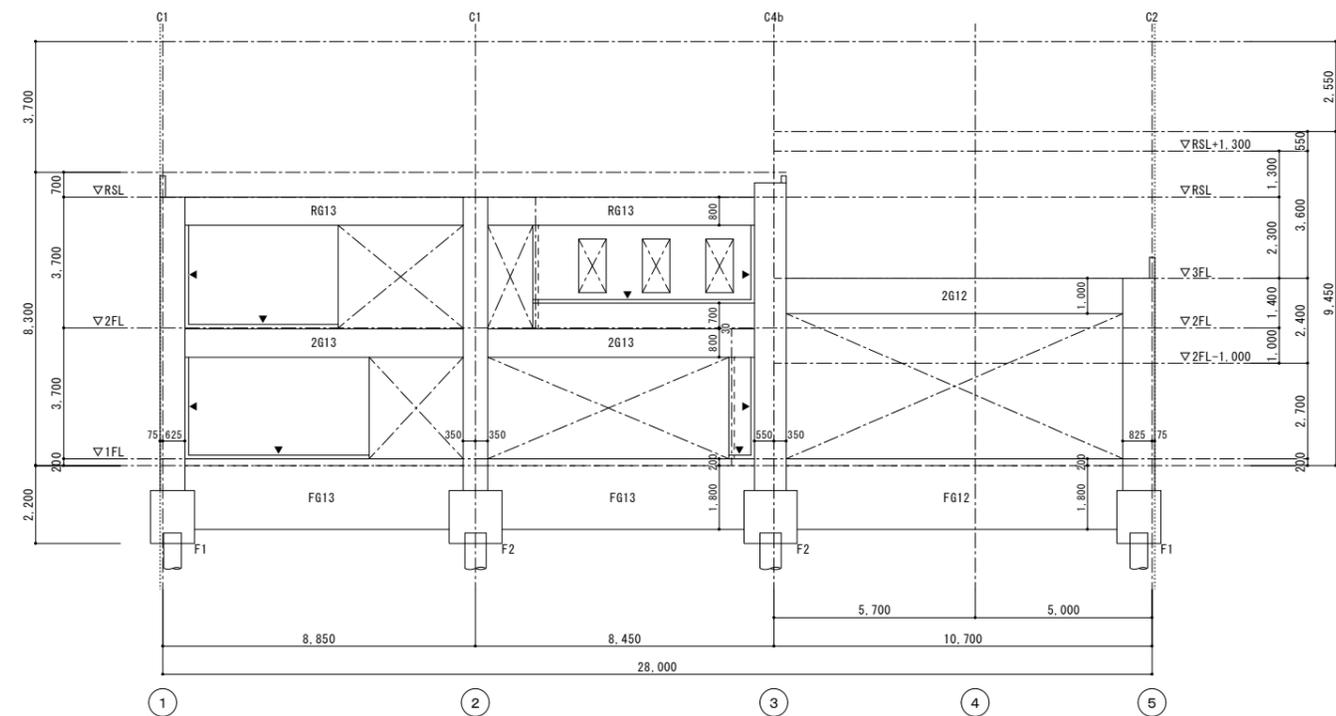
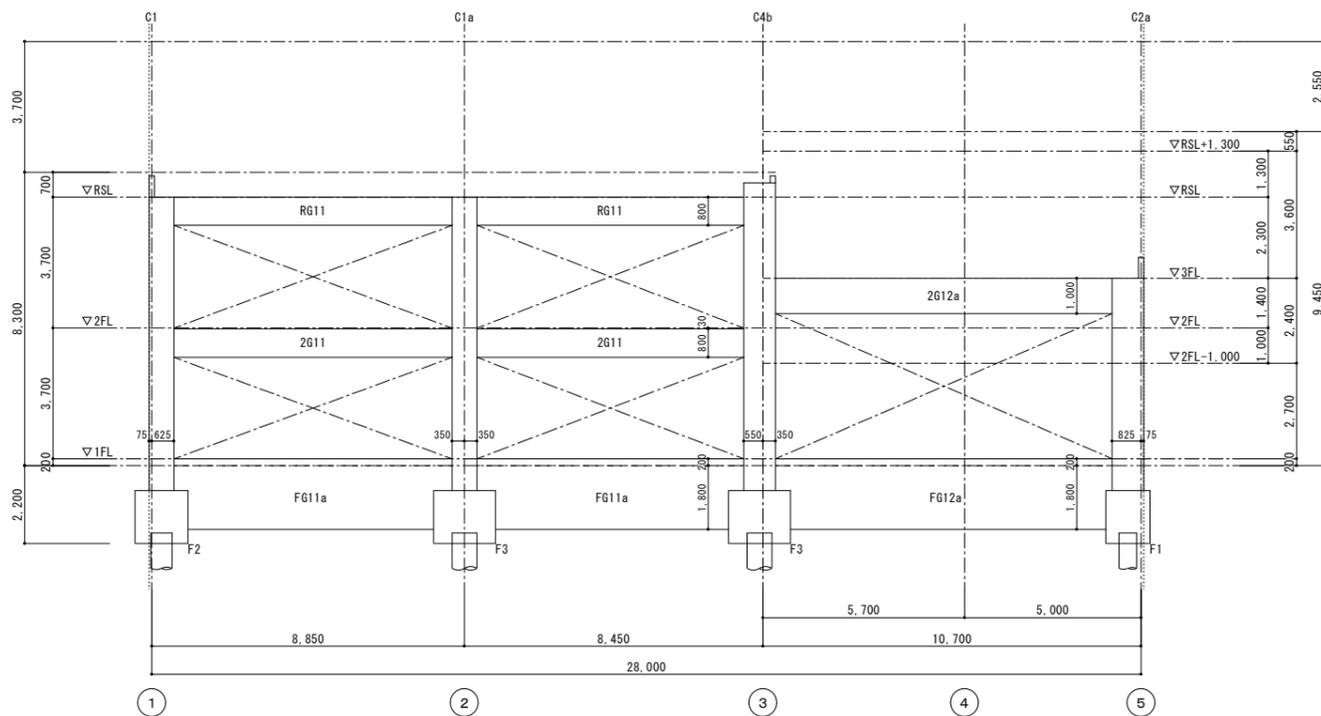
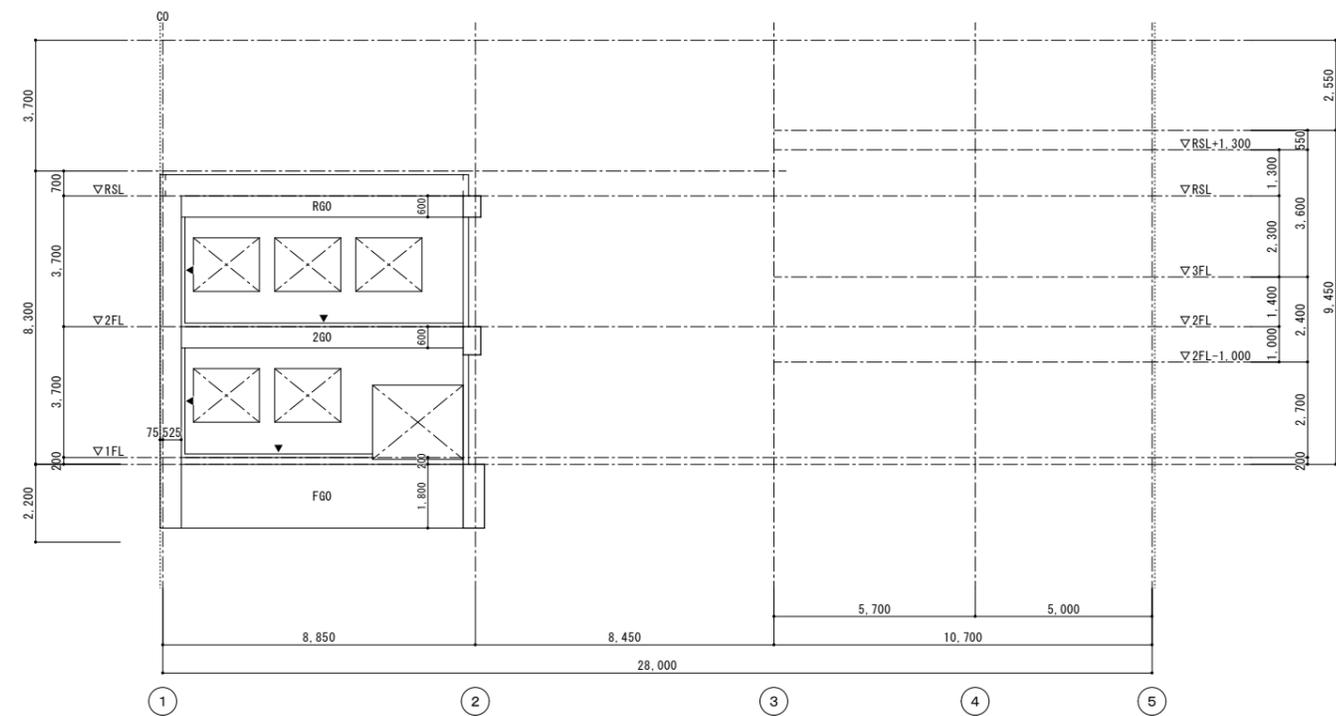
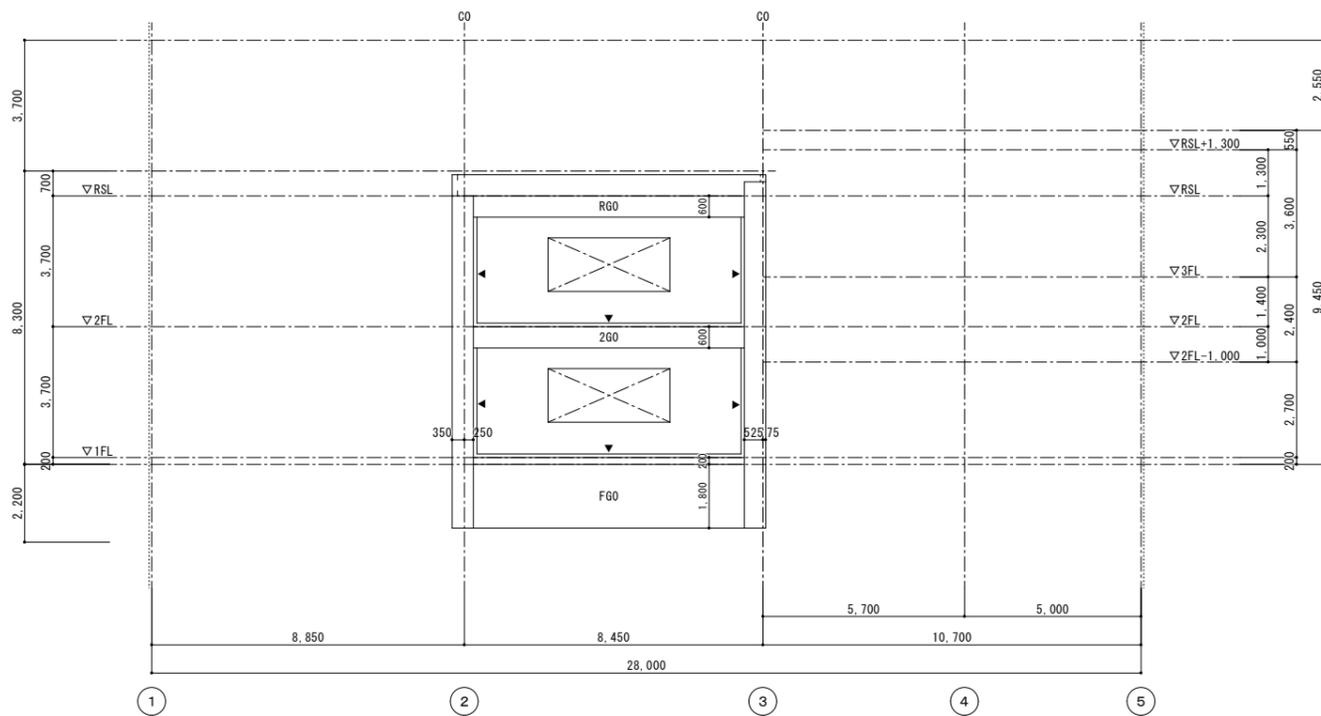
- 特記事項**
- 特記無き限り下記による。
 - 床スラブはS1とする。
 - 立上り壁はW15とする。
 - 床スラブ、小梁天端レベルは下記による。
 - : FL- 10
 - ▨ : FL- 200
 - ▩ : FL-1,000
 - ← 印はスラブ主筋方向を示す。
 - () 内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - 梁主筋はY方向先行落し込みとする。
 - ▽は床スラブ(階段スラブ)の水平スリットを示す。



- 特記事項**
- 特記無き限り下記による。
 - 床スラブは S1 とする。
 - 立上り壁は W15 とする。
 - 床スラブ、小梁天端レベルは下記による。
 - : FL- 10
 - ▨ : FL±0 ~ +110
 - ← 印はスラブ主筋方向を示す。
 - () 内は FL からの梁天端レベルを示す。
 - 梁主筋は Y 方向先行落し込みとする。

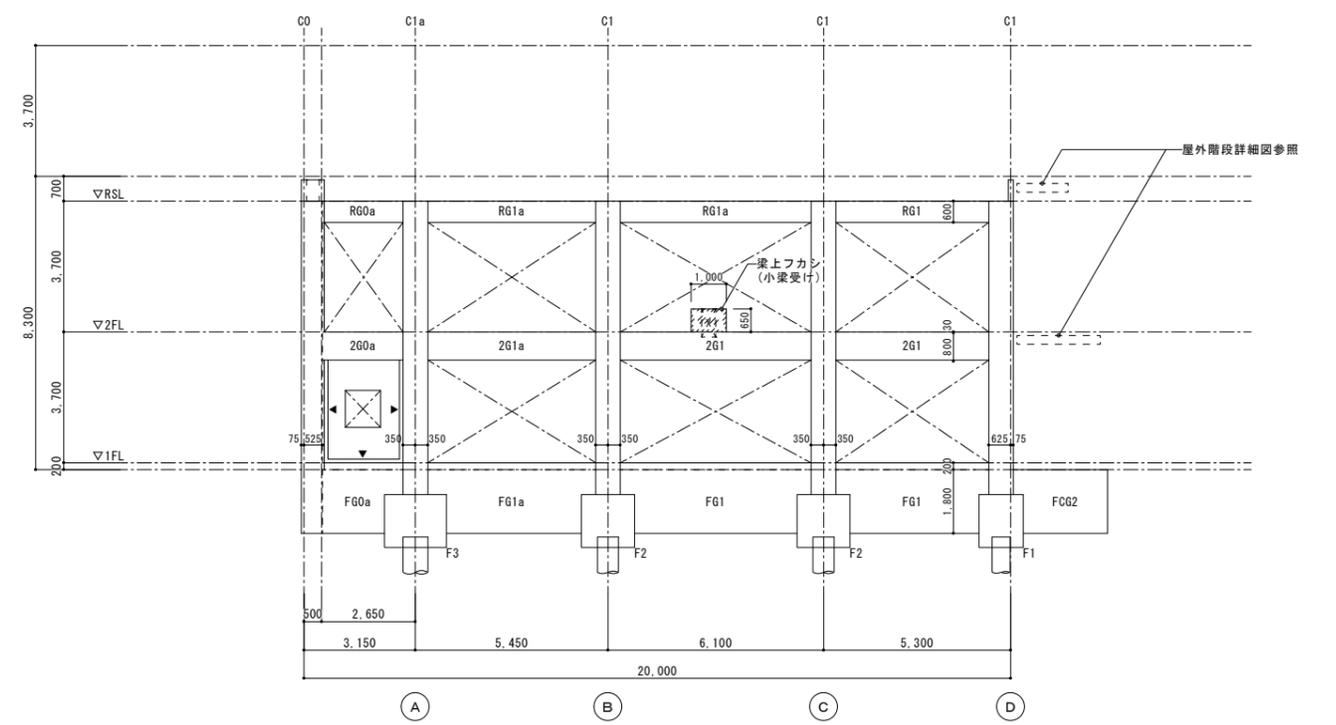
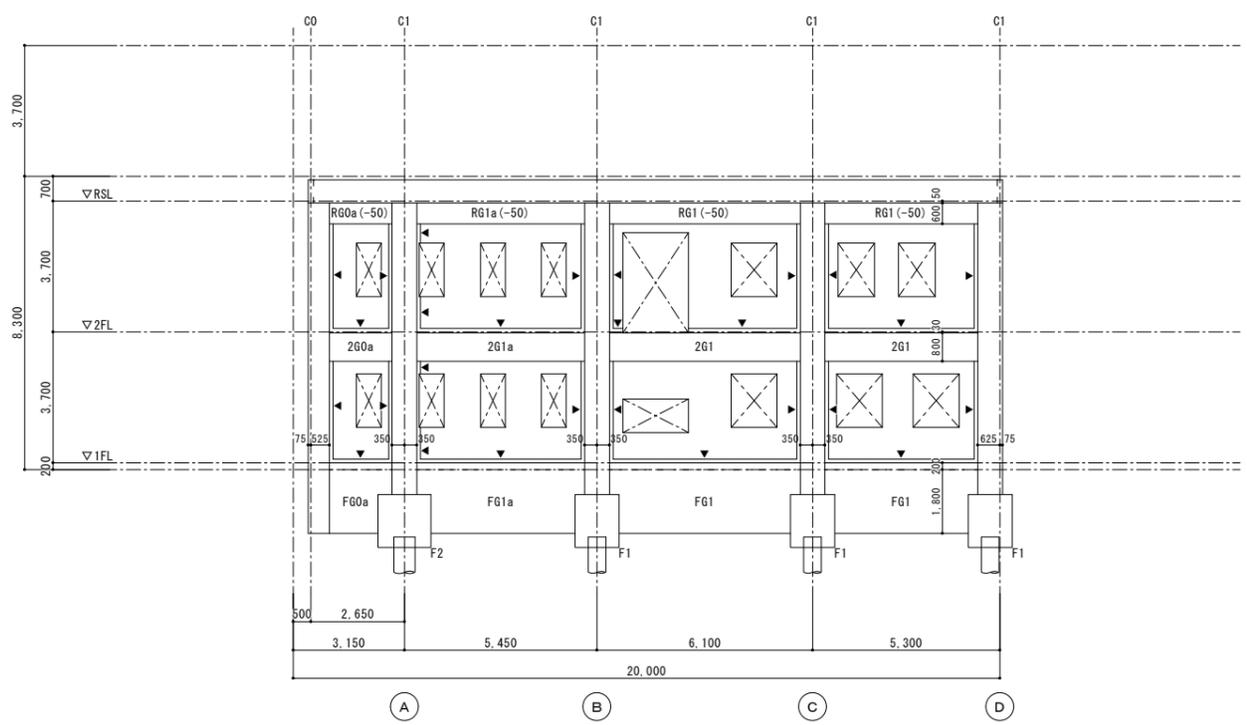
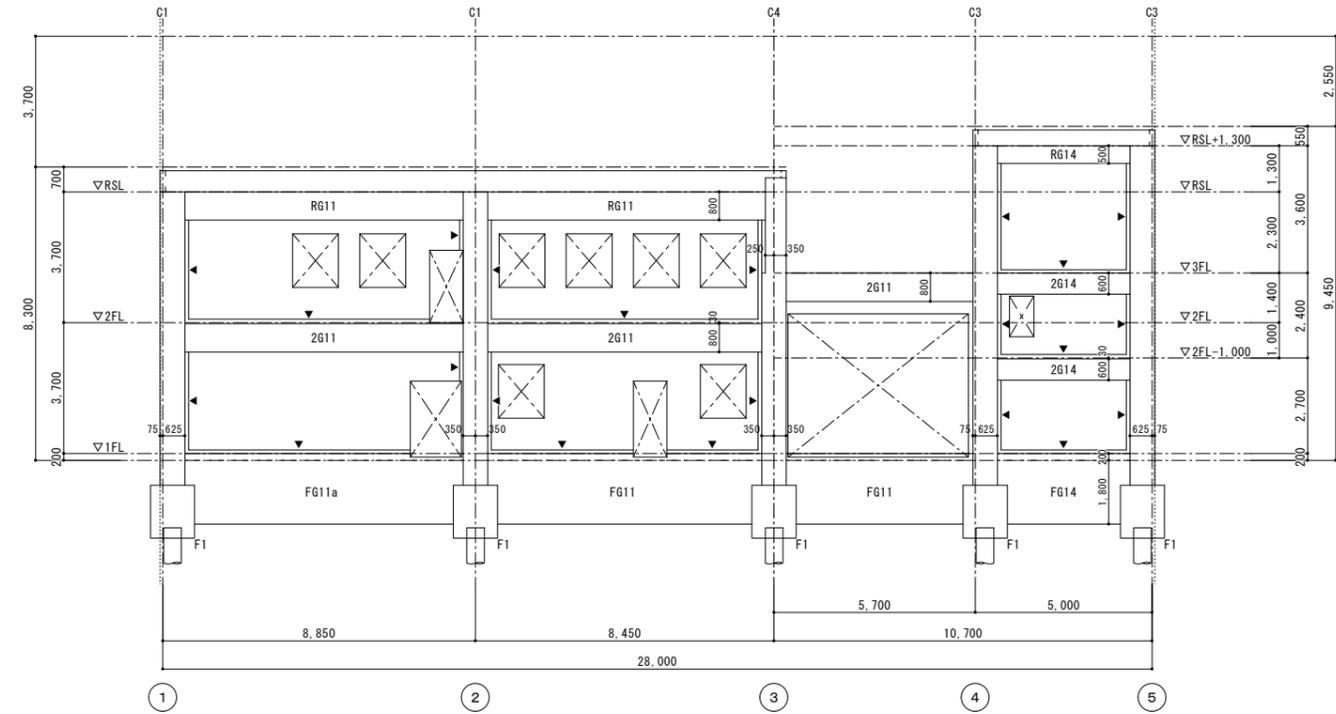
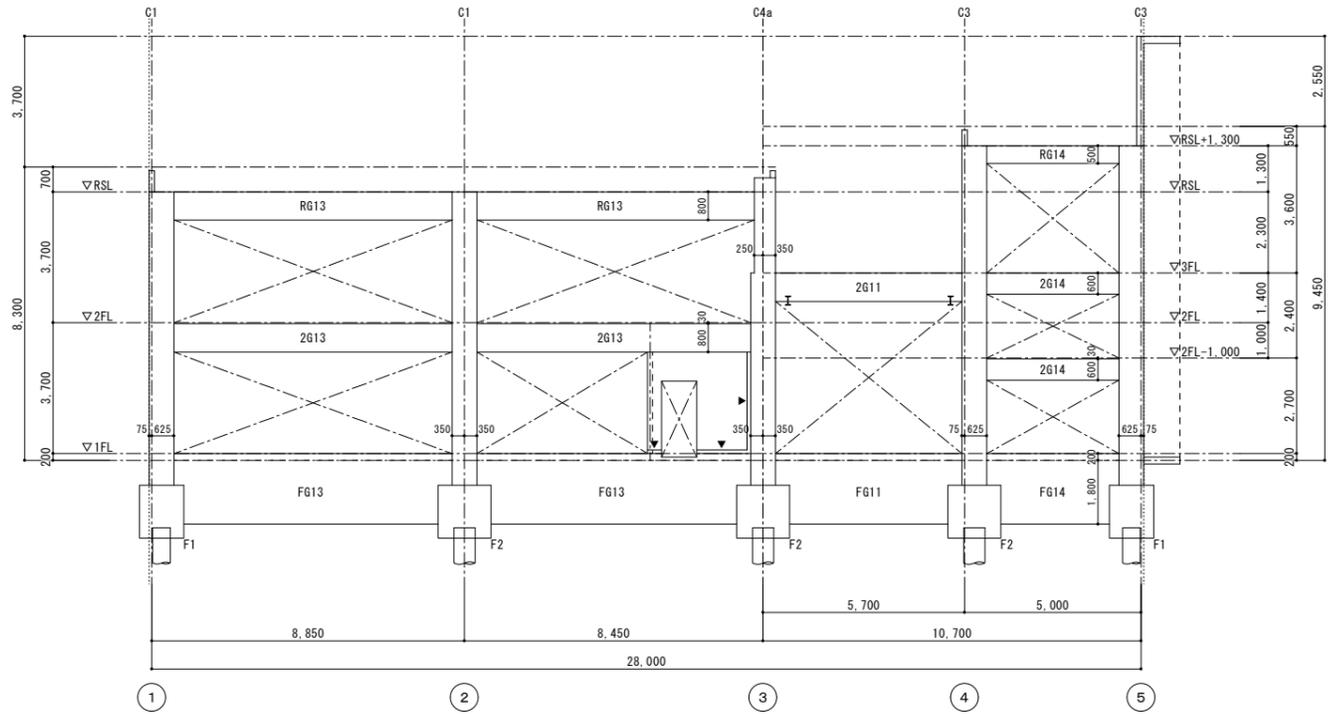


- 特記事項**
- 特記無き限り下記による。
 - 床スラブは S1 とする。
 - 立上り壁は W15 とする。
 - ← 印はスラブ主筋方向を示す。
 - () 内は FL からの梁天端レベルを示す。
 - 梁主筋は Y 方向先行落し込みとする。



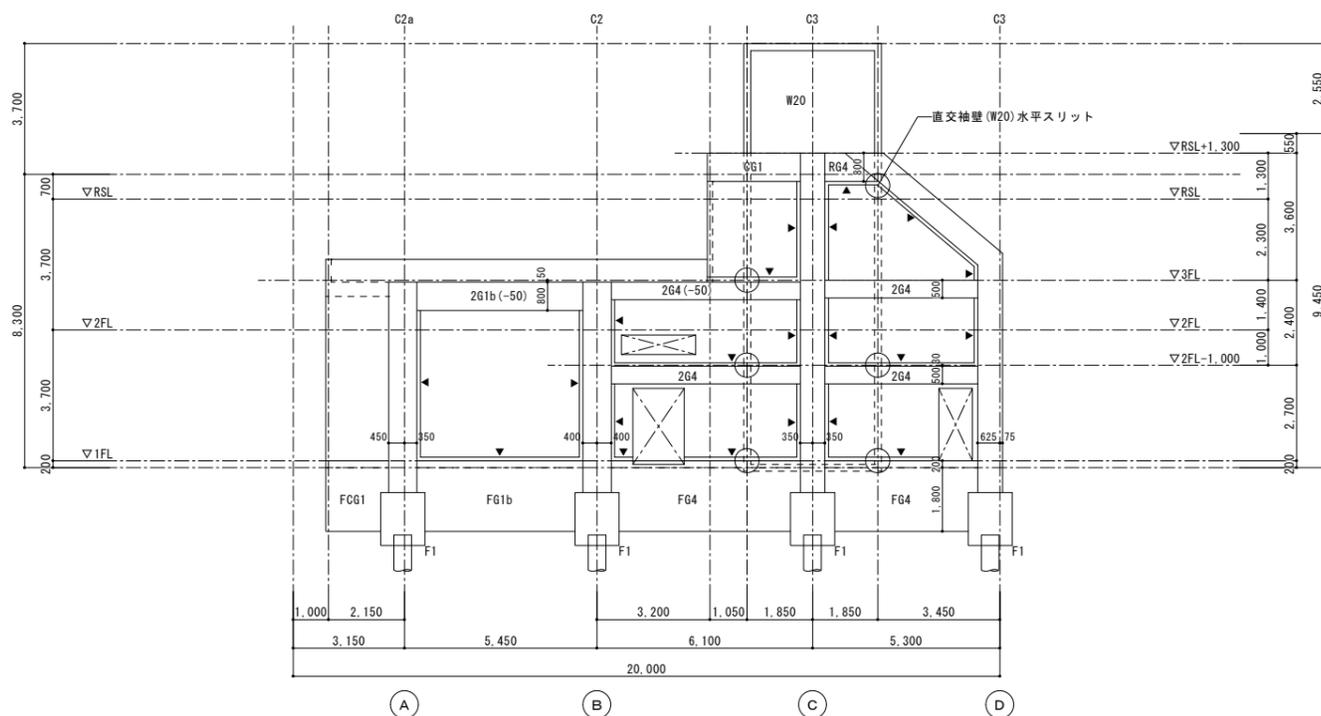
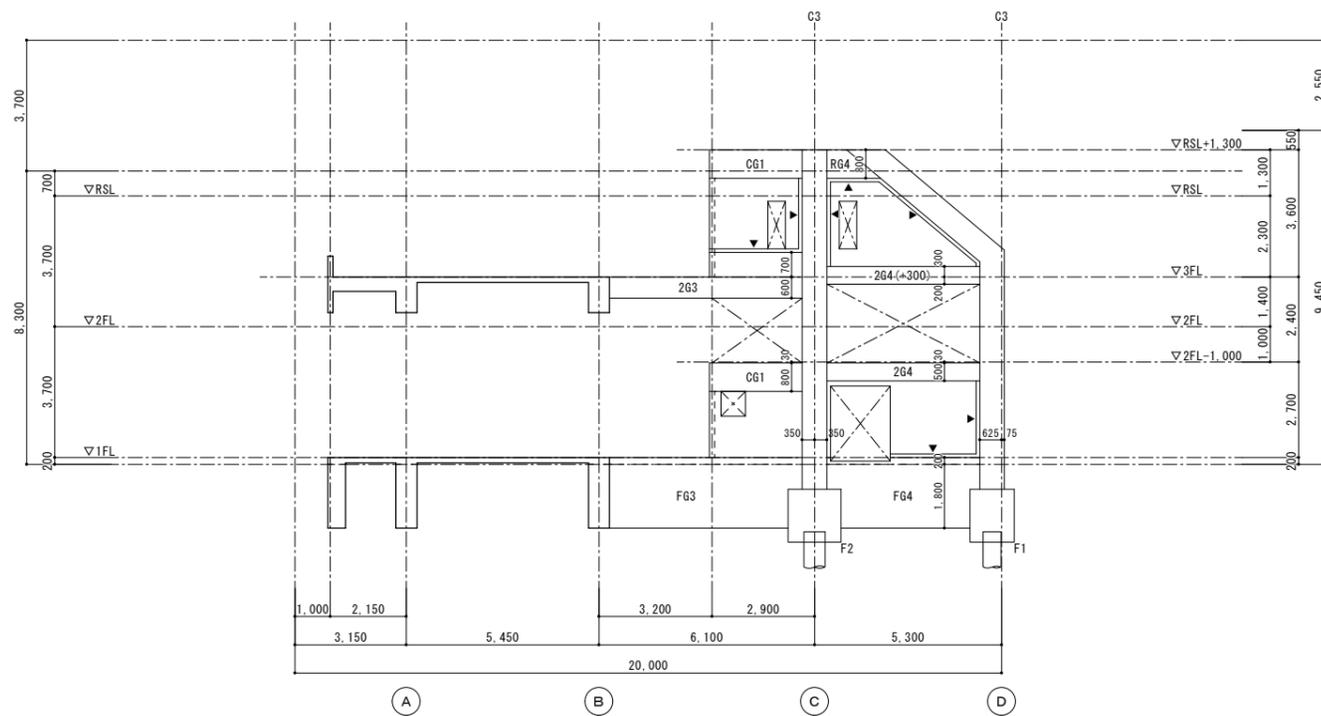
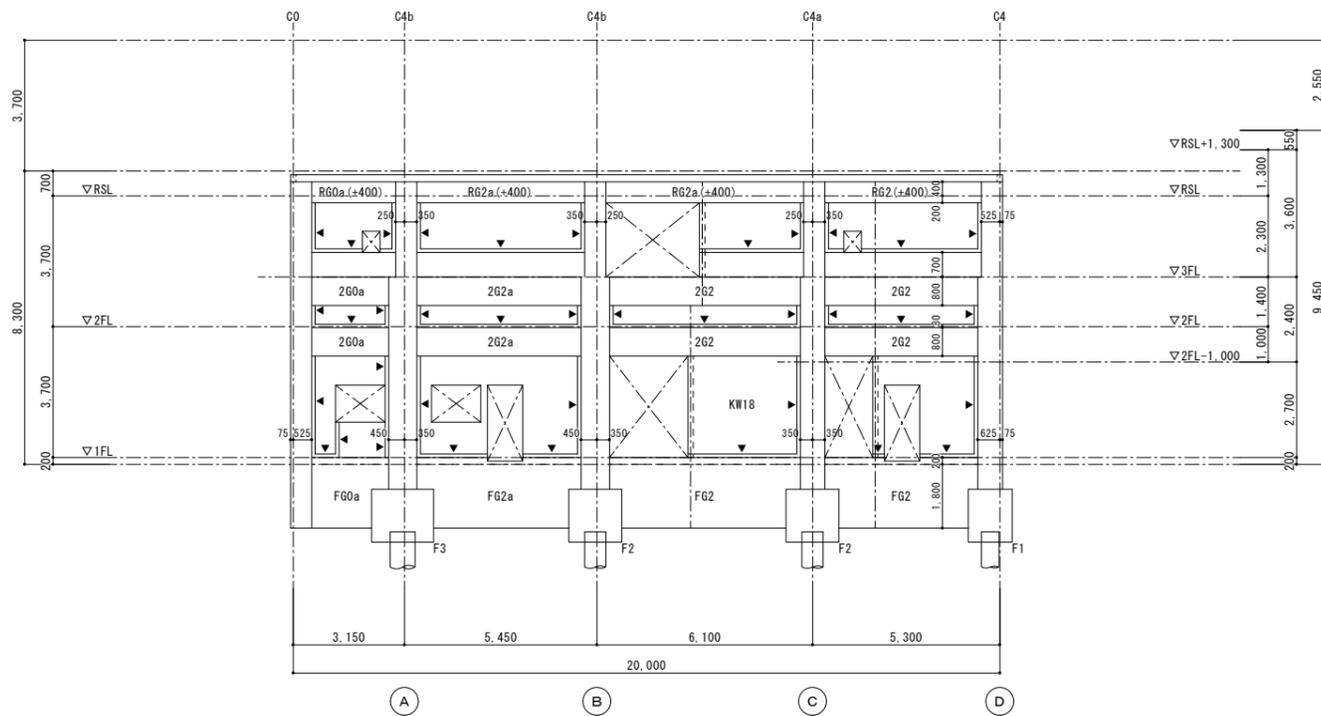
設計名称	坂戸消防署東分署建設工事		
図案名称	軸組図 1		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	年月	R05.03
設計者	一級建築士事務所 SOWA 相和技術研究所	設計者	一級建築士事務所 坂戸消防署東分署建設工事
製図	製図	製図	製図
図面番号	S-13		

一級建築士大臣登録番号 第346290号 坂戸有一
構造設計一級建築士交付番号第 10084号



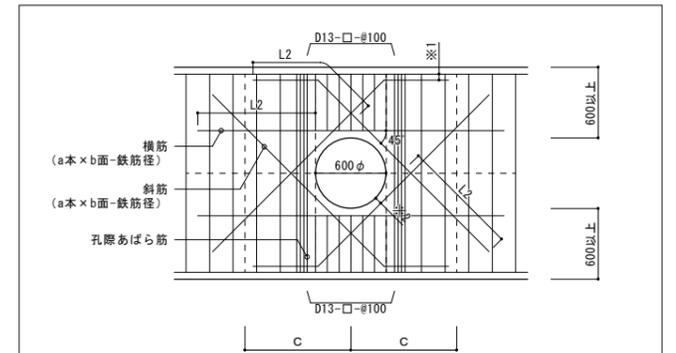
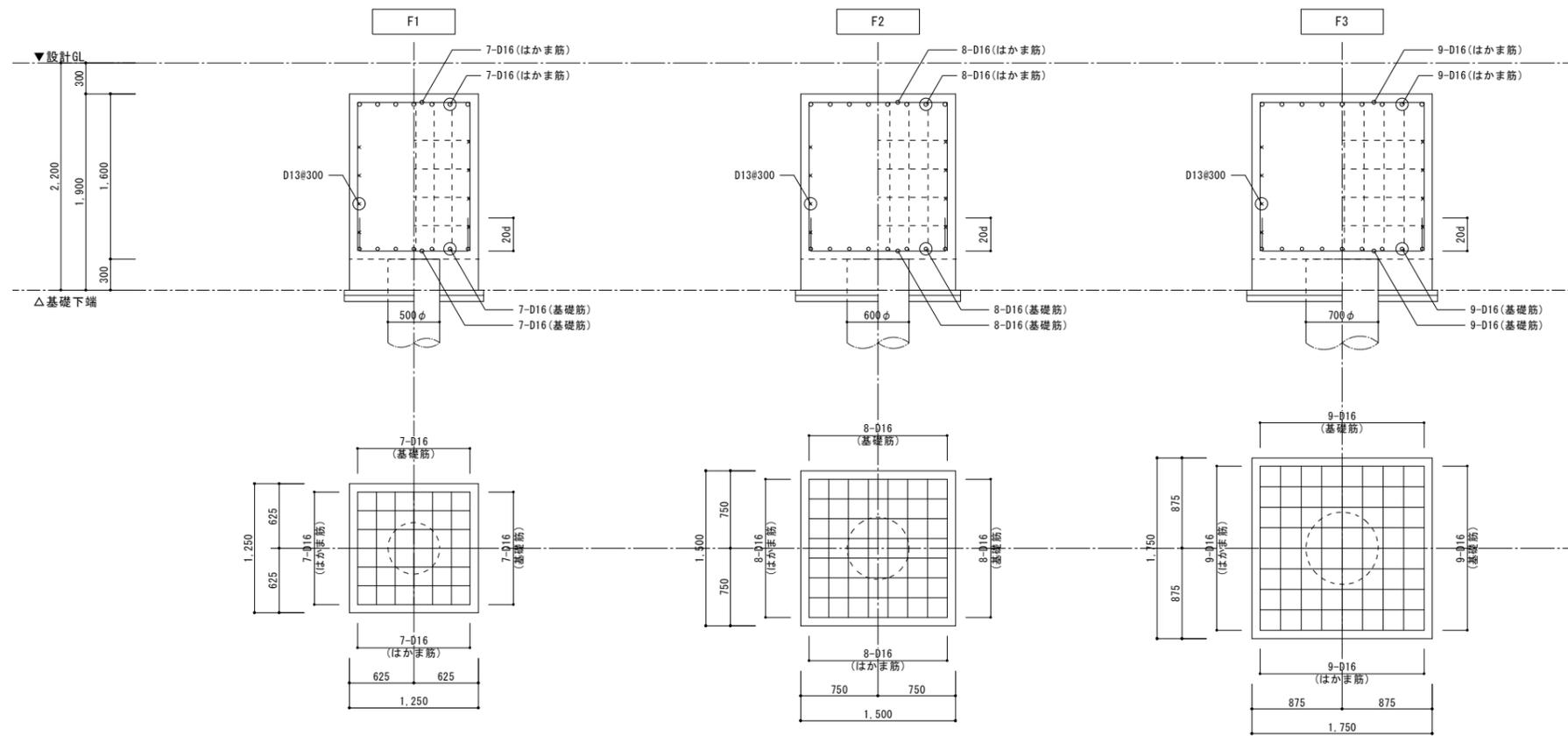
設計名称	坂戸消防署東分署建設工事		
図案名称	軸組図 2		
縮尺	A1:1/100	年月	R05.03
	A3:1/200	設計番号	
図面番号	S - 14		製図
一級建築士大臣登録番号	第346290号	坂戸有一	設計者/
構造設計一級建築士交付番号	第 10084号	坂戸有一	一級建築士 第346290号 坂戸有一
SOWA 相和技術研究所		製図/	坂戸有一
東京都知事登録 第3361号		概算/工務 概包	

一級建築士大臣登録番号 第346290号 坂戸有一
構造設計一級建築士交付番号 第 10084号



設計名称	坂戸消防署東分署建設工事		
図面名称	軸組図 3		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	年月	R05.03
設計番号		図面番号	S-15
承認/図本 読取	設計者/ 一級建築士 齋藤 誠司	監製/ 一級建築士 第346290号 坂口 有一	
概算/工務 概括	SOWA 相和技術研究所 東京都知事登録 第3361号		

一級建築士大臣登録番号 第346290号 坂口 有一
構造設計一級建築士交付番号第 10084号



- 特記事項
1. 人通孔下部スターラップは135° フック付とする。
 2. 人通孔からの鉄筋かぶり厚さを確保する事。
 3. 基礎梁主筋からのあきを確保すること。(※1)
 4. 適正かぶり位置に配筋すること。(※2)
 5. 孔際あばら筋は有効範囲Cの間の孔範囲以外に配筋すること。
 6. 補強範囲Cは孔際あばら筋と同径同本数で、ピッチは100mm以上とする。

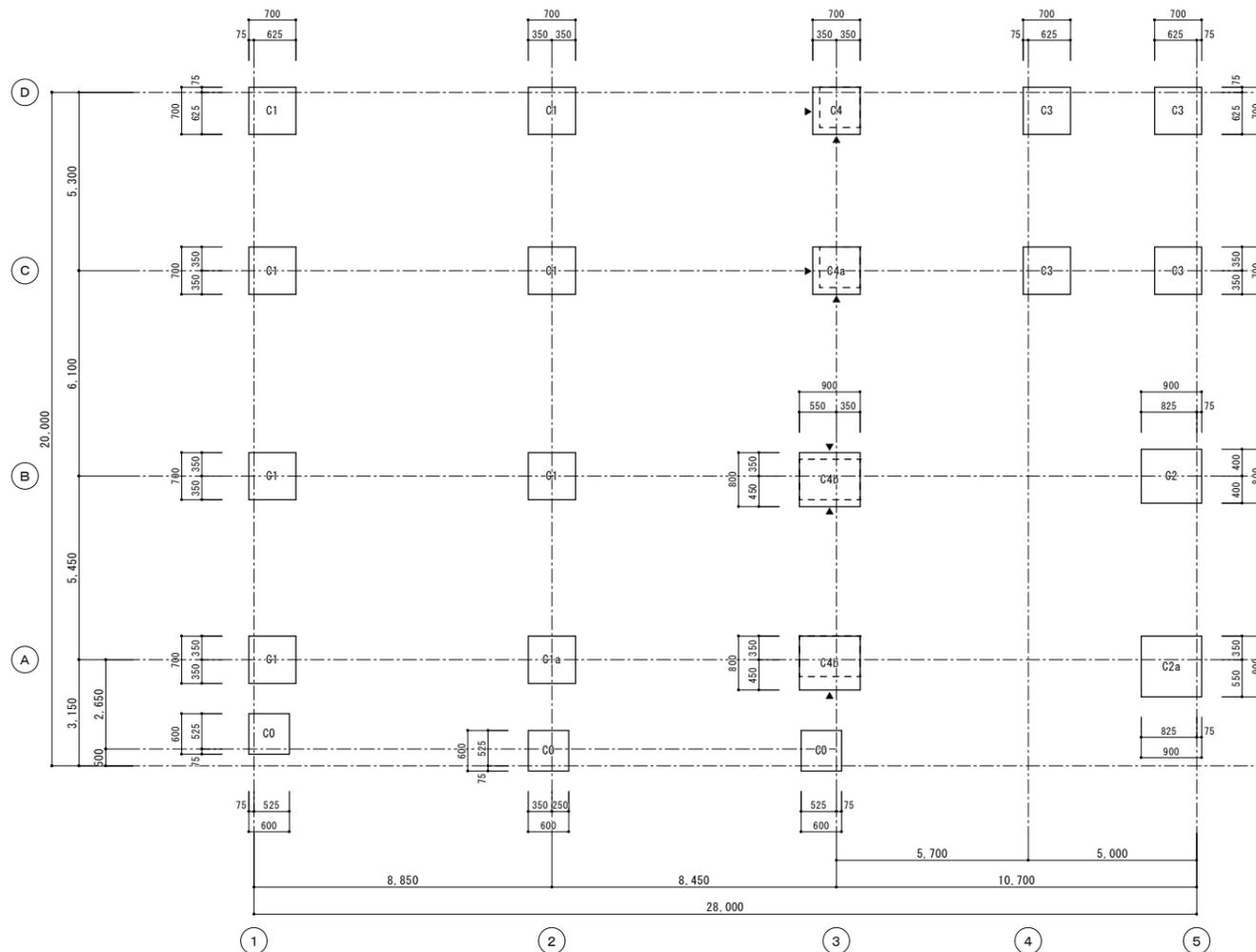
梁符号	斜筋	横筋	孔際あばら筋	備考
FG共通	4-4-D25	2-2-D25	8-□-D13	人通孔(600φ)補強筋
FB1	4-4-D16	2-2-D16	8-□-D13	"

符号	FG1, FG2		FG1a		FG1b		FG2a		FG3		FG4		FG11		FG11a		FG12, FG12a		FG13		FG14		FG0		FG0a																	
	全断面	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面	端部	全断面	端部																	
位置	▽GL																																									
断面	[Cross-section diagrams showing reinforcement details for each beam type]																																									
BxD	600x1800		600x1800		600x1800		600x1800		600x1800		600x1800		600x1800		600x1800		600x1800		600x1800		600x1800		400x1800		500x1800																	
上端筋	6-D29		15-D29		15-D29		8-D29		8-D29		14-D29		14-D29		6-D29		6-D29		6-D29		6-D29		7-D29		7-D29		8-D29		8-D29		7-D29		7-D29		6-D29		6-D29		3-D29		13-D29	
下端筋	6-D29		8-D29		8-D29		6-D29		6-D29		8-D29		8-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		7-D29		7-D29		8-D29		8-D29		6-D29		6-D29		6-D29		3-D29		7-D29			
筋筋	D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		D13-□-#200		S13-□-#100			
腹筋	5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10					

基礎小梁リスト 1/50

符号	FB1		FB2		FB3		FCG1		FCG2		FCB1, FB1a	
	端部	中央	端部	中央	端部	中央	元端	先端	元端	先端	元端	先端
位置	▽GL											
断面	[Cross-section diagrams showing reinforcement details for each beam type]											
BxD	400x1800		300x1800		400x800		600x1800		600x1800		400x1800	
上端筋	3-D22		3-D22		3-D22		6-D29		6-D29		6-D22	
下端筋	3-D22		3-D22		3-D22		4-D29		4-D29		3-D22	
筋筋	D10-□-#150		D10-□-#150		D10-□-#150		D13-□-#200		D13-□-#200		D10-□-#150	
腹筋	5x2-D10		5x2-D10		2-D10		5x2-D10		5x2-D10		5x2-D10	

階	符号	C1	C1a	C2	C3	C4	C4a	C4b	C2a	C0
2階	接合部帯筋	D13-□-#100	D13-□-#100		D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100		D13-□-#100
	全断面									
	BxD	700x700	700x700		700x700	600x600	600x600	900x600		600x600
	主筋	24-D25	20-D25		20-D25	16-D25	16-D25	22-D25		12-D25
1階	接合部帯筋	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	U12.6-■-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100
	柱頭									
	BxD	700x700	700x700	900x800	700x700	700x700	700x700	900x800	900x900	600x600
	主筋	24-D25	22-D25	22-D25	22-D25	22-D25	22-D25	24-D25	24-D25	18-D25
帯筋	D13-■-#100	D13-■-#100	U12.6-■-#100	S13-■-#100	S13-■-#100	U12.6-■-#100	U12.6-■-#100	U12.6-■-#100	D13-□-#100	
接合部帯筋	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100	D13-□-#100
柱脚	同上	同上		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
BxD			900x800							
主筋			24-D25							
帯筋			U12.6-■-#100							



特記事項
1. ▼は断面のセットバック方向を示す。

階	符号	G1	G1a	G1b	G2	G2a	G3	G4	G11
R階	位置	全断面	全断面		全断面	全断面		全断面	全断面
	断面								
	BxD	450x600	450x600		450x600	450x600		450x800	500x800
	上端筋	4-D29	6-D29		3-D29	6-D29		3-D29	5-D29
2.3階	位置	全断面	全断面						
	断面								
	BxD	500x800	500x800	500x800	500x800	500x800	500x600	500x500	500x800
	上端筋	7-D29	8-D29	6-D29	7-D29	8-D29	10-D29	7-D29	7-D29
下端筋	5-D29								
筋	D13-□-#200	D13-□-#150	D13-□-#150	D13-□-#200	D13-□-#200	D13-□-#200	S13-□-#100	D13-□-#200	
腹筋	-	2-D10	-	-	-	-	-	2-D10	

階	符号	G12	G12a	G13	G14	G0		
R階	位置			1. 3端	中央	2端	全断面	全断面
	断面							
	BxD			500x800	400x500	450x650		
	上端筋			5-D29	3-D29	3-D29		
2.3階	位置	全断面	3端・中央	5端	1. 3端	中央	2端	全断面
	断面							
	BxD	500x1000	500x1000	500x800	500x600	500x600	500x600	500x600
	上端筋	9-D29	8-D29	7-D29	7-D29	7-D29	5-D29	5-D29
筋	D13-□-#150	D13-□-#150	D13-□-#150	D13-□-#150	D13-□-#150	D13-□-#100	D13-□-#200	
腹筋	2x2-D10	2x2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	-	2-D10	

階	符号	G0a
R階	位置	全断面
	断面	
	BxD	450x600
	上端筋	3-D29
2.3階	位置	全断面
	断面	
	BxD	500x800
	上端筋	5-D29
筋	D13-□-#100	
腹筋	2-D10	

一級建築士大臣登録番号 第346290号 坂口有一
構造設計一級建築士交付番号第 10084号

設計名称 坂戸消防署東分署建設工事
図面名称 柱・大梁リスト
縮尺 A1:1/50
A3:1/100
年月 R05.03
設計番号
図面番号 S-17
SOWA 相和技術研究所
一級建築士事務所
東京都知事登録 第3361号
承認/図本 設計者/ 坂口有一
監製/工藤 規也

小梁リスト 1/50

符号	B1		B2		B3		B4	B5	B6		B7		B8		WB1
	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	両端	両端	中央	両端	中央	両端	中央	
断面															
BxD	400x600		400x600		400x800		300x500	300x600	400x800		400x600		400x800		180x600
上端筋	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	3-D19	6-D22	4-D22	4-D22	3-D22	4-D22	4-D22	2-D19
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22	3-D19	3-D19	4-D22	6-D22	3-D22	3-D22	4-D22	6-D22	2-D19
肋筋	D10-□-@150		D10-□-@150		D10-□-@150		D10-□-@200	D10-□-@200	D10-□-@150		D10-□-@150		D10-□-@150		D10-□-@200
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10		1-D10

符号	CG1
位置	両端
断面	
BxD	450x800
上端筋	8-D29
下端筋	4-D29
肋筋	D13-□-@150
腹筋	2-D10

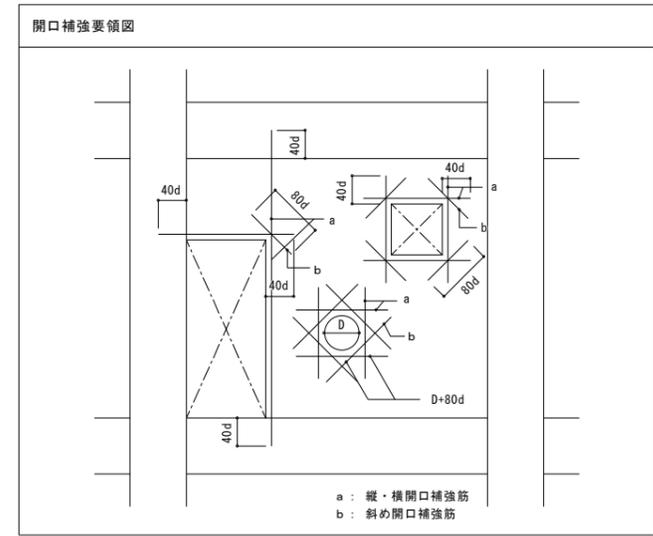
スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向	長辺方向	備考
S1	200	上端筋	D13@150	D10D13@150	
		下端筋	D10D13@150	D10@150	
S2	150	上端筋	D10D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S3	150	上端筋	D13@200	D10D13@200	
		下端筋	D10D13@200	D10@200	
S4	150	上端筋	D13@150	D10D13@150	
		下端筋	D10D13@150	D10@150	
S5	200	上端筋	D10D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S6	180	上端筋	D13@150	D10D13@150	
		下端筋	D10D13@150	D10@150	
S7	200	上端筋	D13@100	D13@100	
		下端筋	D13@100	D13@100	
CS1	400	上端筋	D16@100	D13@200	
		下端筋	D13@100	D13@200	
CS2	200	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	
CS3	150	上端筋	D10D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
FS1	250	上端筋	D13@200	D13@200	配管ビット
		下端筋	D13@200	D13@200	
土間	150	上端筋	D10@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	

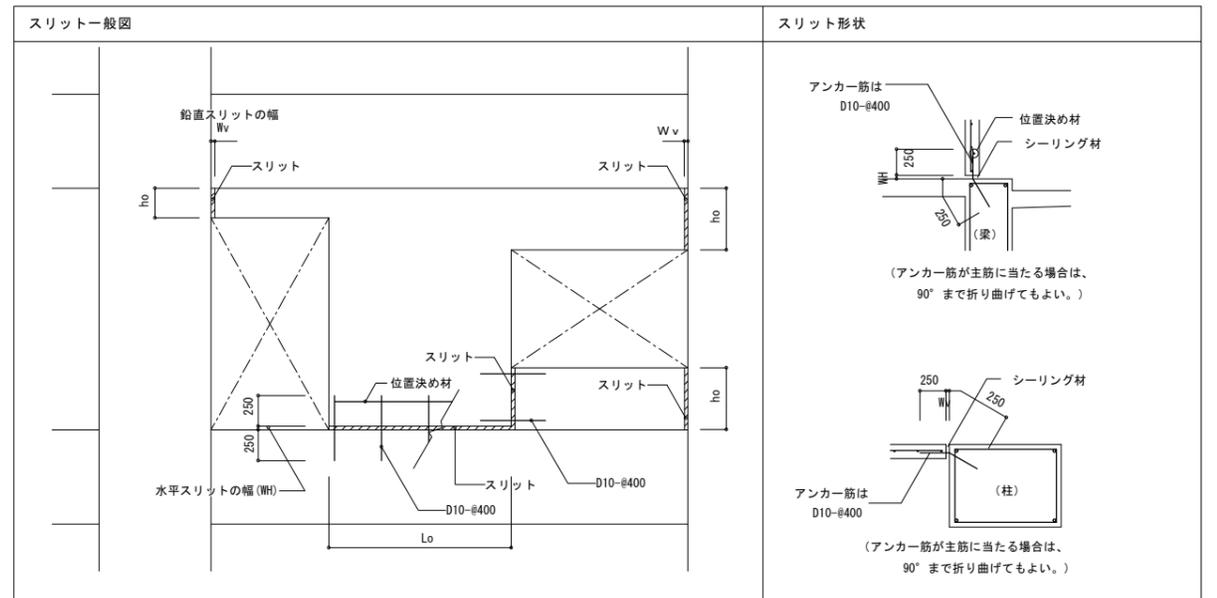
壁リスト 1/50

符号	W15	KW18	W20
断面			
縦筋	D10@150 (シングル)	D19@100 (ダブル)	D10@200 (ダブル)
横筋	D10@150 (シングル)	D10@200 (ダブル)	D10@200 (ダブル)
補強筋	縦 2-D13	4-D13	4-D13
	横 2-D13	4-D13	4-D13
	斜め 1-D13	2-D13	2-D13
巾止筋	-	-	-
備考			端部補強筋: 4-D19

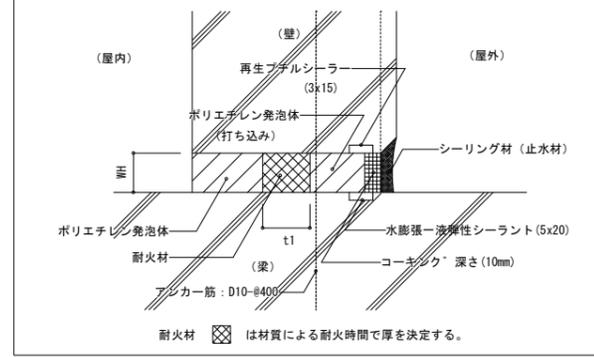
開口補強要領図



スリット要領図

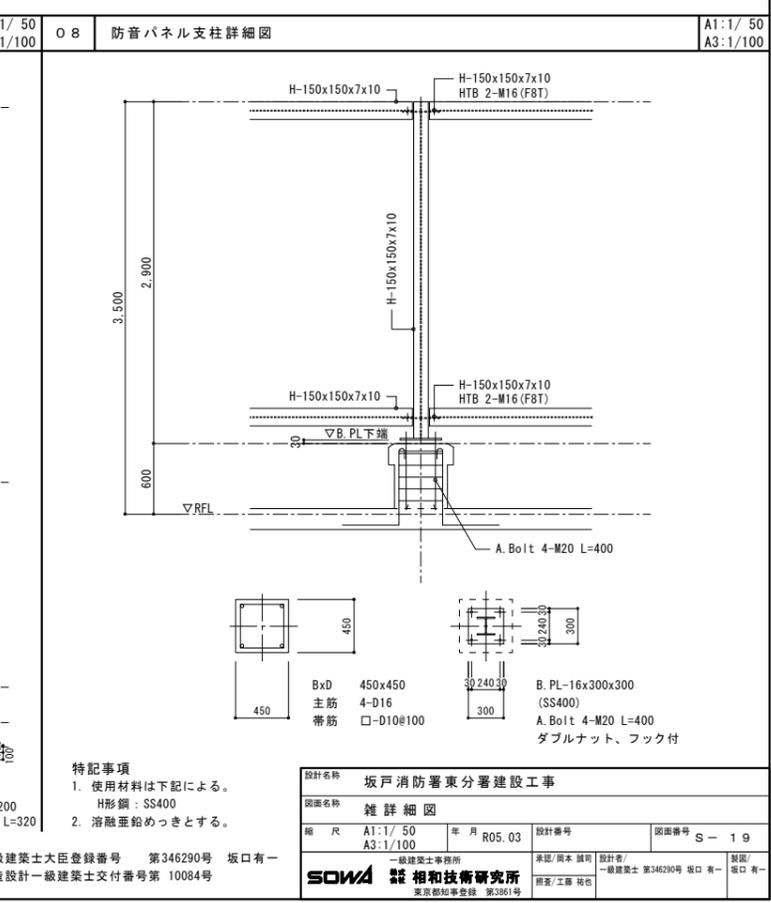
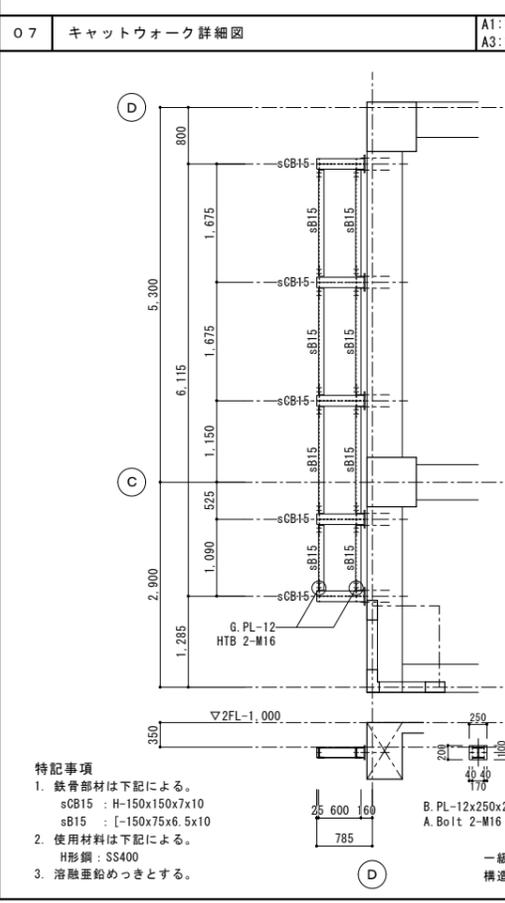
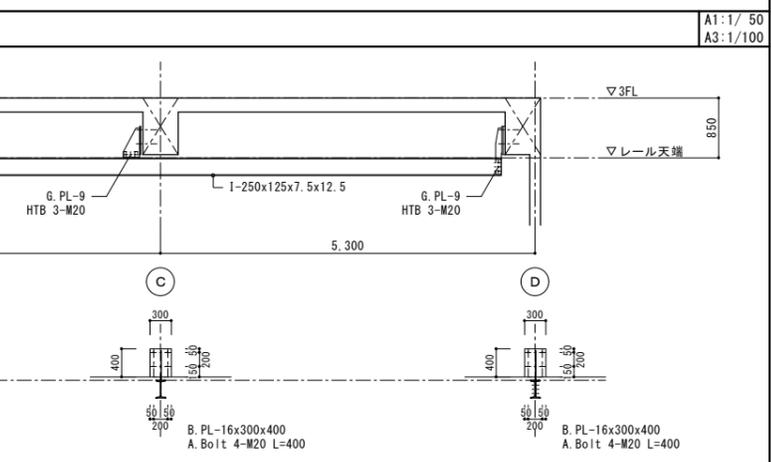
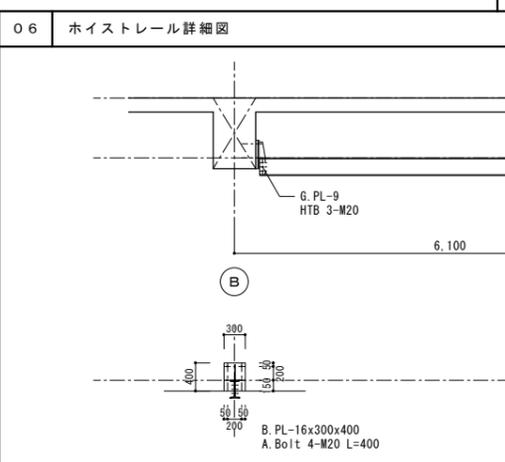
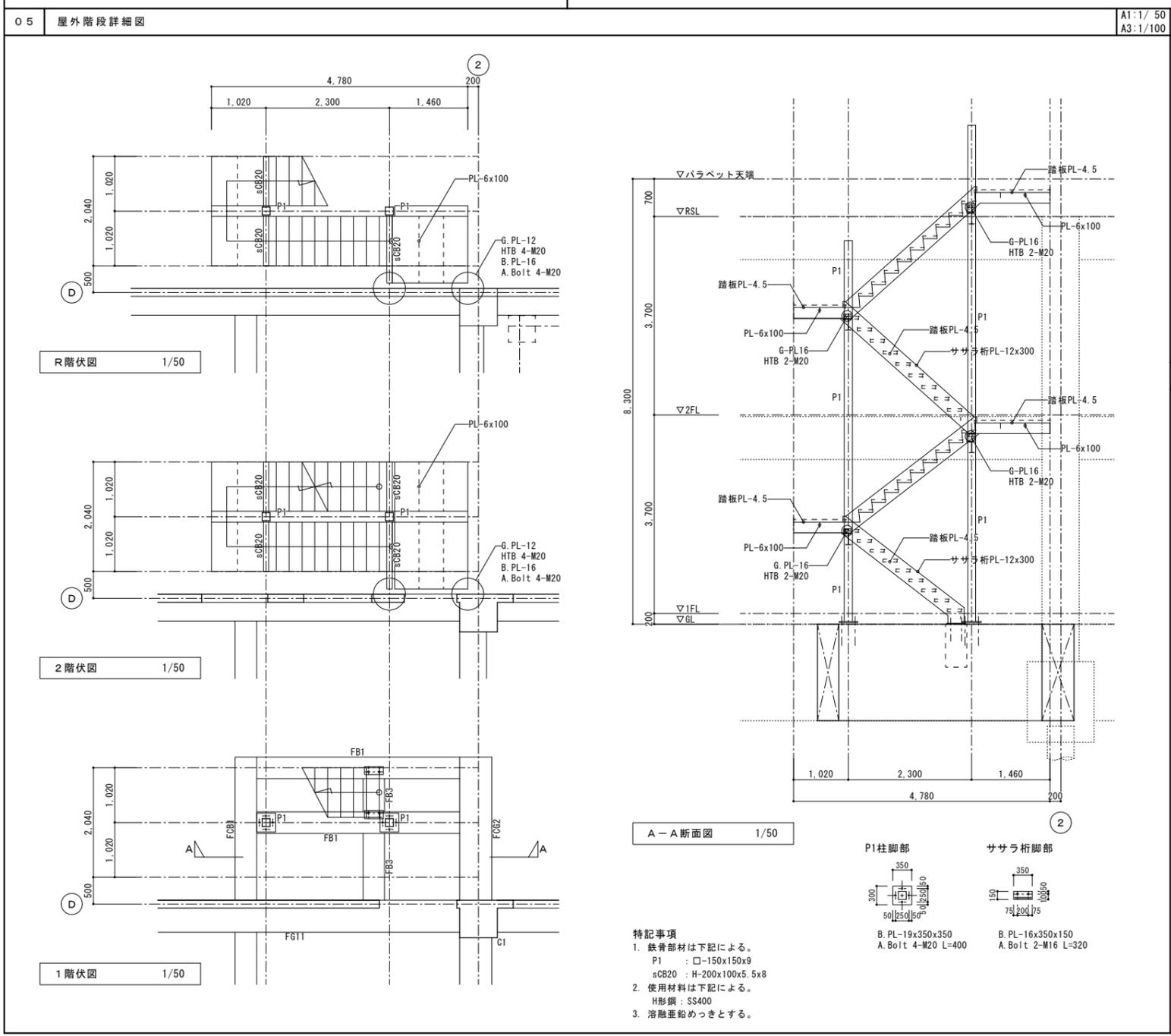
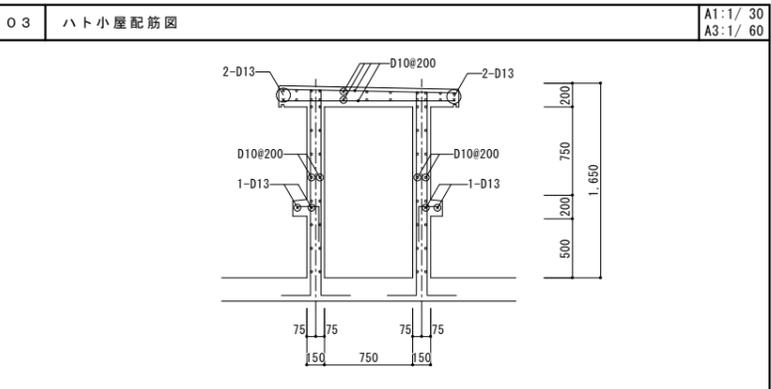
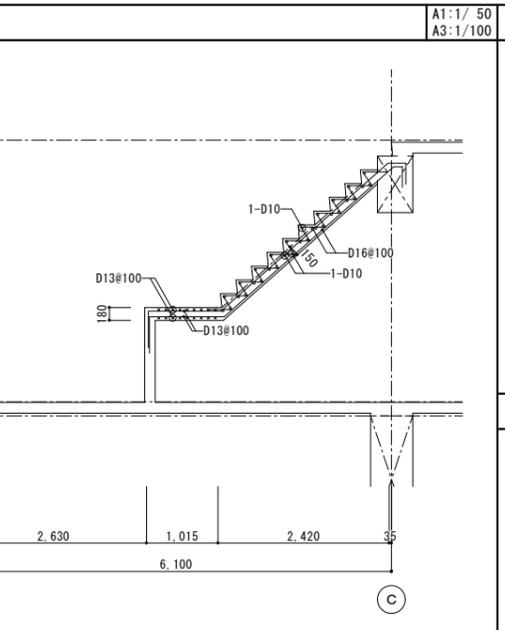
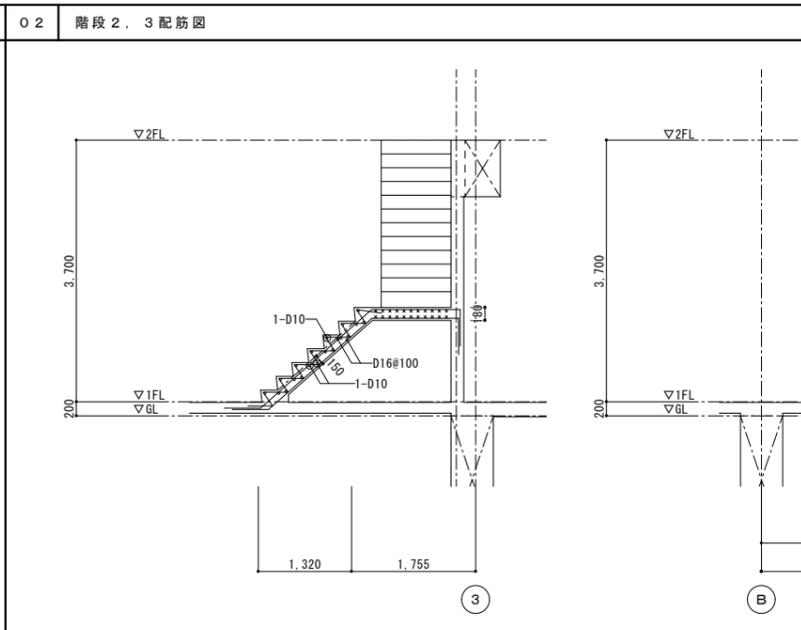
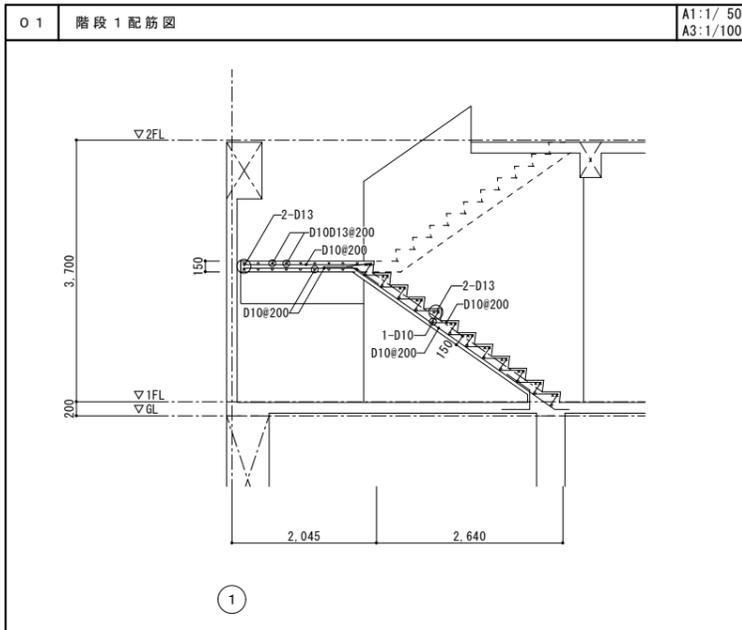


スリット詳細例



特記事項

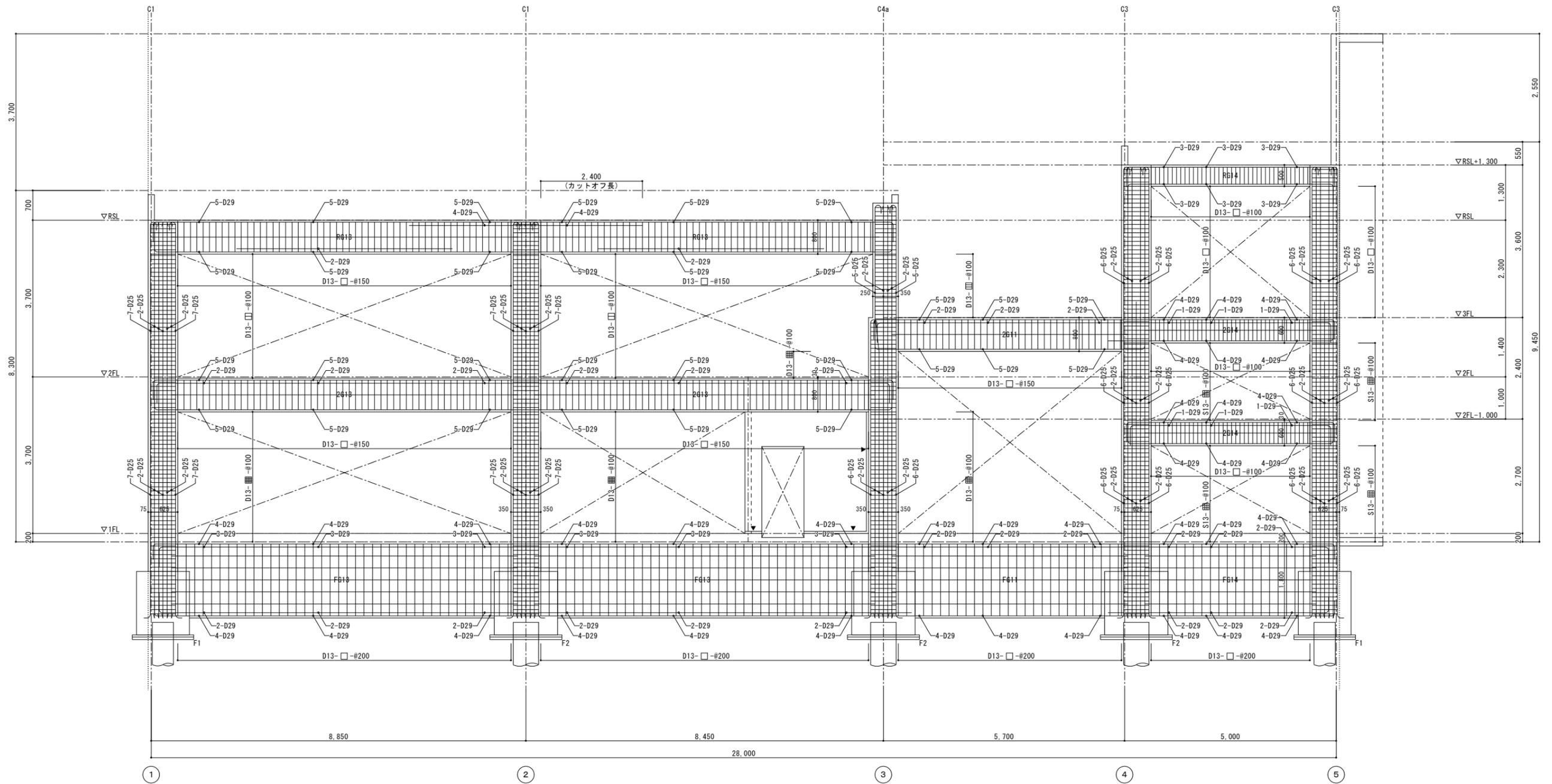
- 特記なき限り下記による
1. 実際のスリットの位置は軸組図による。
 2. スリット部分のアンカー筋はD10-@400とする。
 3. スリット部分の鉄筋等のかぶり厚さは30mm以上とする。
 4. 軸組図でスリットの幅が指定されていないときは、下記に依る。
鉛直スリットの幅Wvは、15mm以上かつho/100以上とする。
水平スリットの幅Whは、15mm以上かつLo/100以上とする。
※ho/100またはLo/100が40mmを超える場合は、40mmとする。
 5. 既製品を使用する場合は耐火性及び止水性のある製品とし、監督員の承諾の上使用すること。



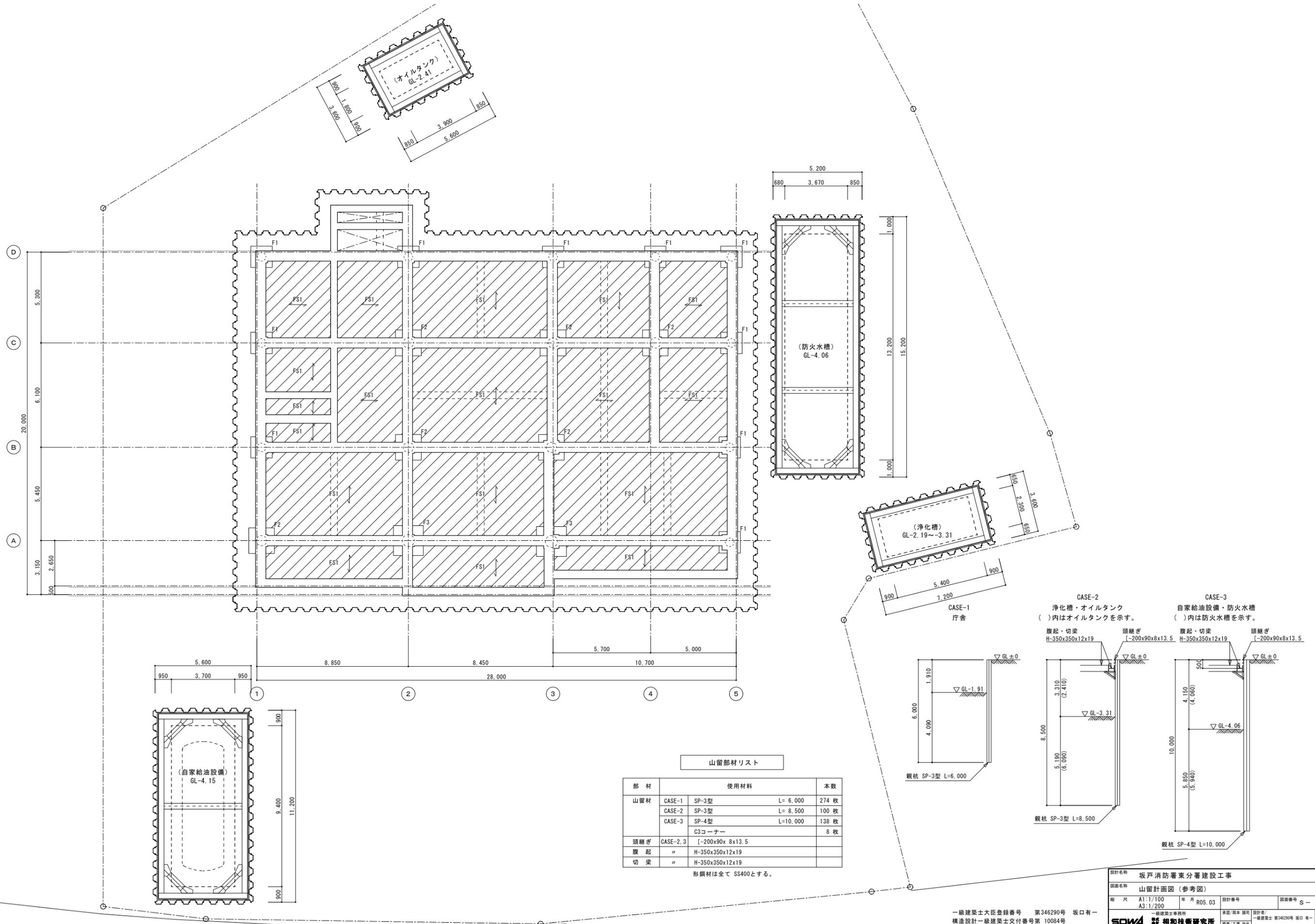
設計名称	坂戸消防署東分署建設工事		
図案名称	詳細図		
縮尺	A1:1/50 A3:1/100	年月	RO5.03
設計番号		図面番号	S-19
設計者/	一級建築士事務所	設計者/	一級建築士 第346290号 坂口 有一
監理/工務	現在	監理/工務	現在

一級建築士大臣登録番号 第346290号 坂口 有一
 構造設計一級建築士交付番号 10084号

SOWA 相和技術研究所
 東京都中央区 第3361号



設計名称	坂戸消防署東分署建設工事		
図案名称	架構配筋図 (C通り)		
縮尺	A1:1/50	年月	R05.03
	A3:1/100	設計番号	図案番号 S-20
一級建築士大倉登録番号 第346290号 坂口有一	一級建築士事務所	承認/図本 署名	設計者/一級建築士 第346290号 坂口有一
構造設計一級建築士交付番号第 10084号	SOWA 相和技術研究所	審査/工務 署名	製図/窓口 有一
	東京都知事登録 第3361号		



山留部材リスト

部材	使用材料	本数
山留材	CASE-1 SP-3型 L= 6.000	274 枚
	CASE-2 SP-3型 L= 8.500	100 枚
	CASE-3 SP-4型 L=10.000	138 枚
頭継ぎ	CASE-2,3 [-200x90x 8x13.5	8 枚
腹起	" H-350x350x12x19	
切梁	" H-350x350x12x19	

形鋼材は全て SS400とする。

設計名称 坂戸消防署東分署建設工事
 図面名称 山留計画図 (参考図)
 縮尺 A1:1/100 年月 R05.03 設計番号 図面番号 S-21
 A3:1/200
 一級建築士事務所 相和技術研究所
 構造設計一級建築士交付番号 10084号
 東京都知事登録 第3361号